

平成28年度使用中学校用教科用図書の採択結果

皆野町教育委員会

種 目	発 行 者 名	書 名
国 語	光村図書出版	国語
書 写	光村図書出版	中学書写
社 会 (地理的分野)	東京書籍	新編 新しい社会 地理
社 会 (歴史的分野)	東京書籍	新編 新しい社会 歴史
社 会 (公民的分野)	東京書籍	新編 新しい社会 公民
地 図	帝国書院	中学校社会科地図
数 学	東京書籍	新編 新しい数学
理 科	東京書籍	新編 新しい科学
音 楽 (一般)	教育芸術社	中学生の音楽
音 楽 (器楽合奏)	教育芸術社	中学生の器楽
美 術	日本文教出版	美術
保健体育	東京書籍	新編 新しい保健体育
技術・家庭 (技術分野)	開隆堂出版	技術・家庭 (技術分野)
技術・家庭 (家庭分野)	開隆堂出版	技術・家庭 (家庭分野)
英 語	開隆堂出版	SUNSHINE

平成28年度使用中学校用教科用図書の採択理由

皆野町教育委員会

種 目	発行者名	採択の主な理由
国 語	光村	○従来の定番の作品に加えて、現在活躍している方の作品や興味・関心を高める作品を多く取り入れ、話題性のある良質な教材がそろっている。 ○総合的な学習の時間や他教科の学習との関連を配慮し、新聞づくりやプレゼンテーション等、学校生活に根ざした学習活動の教材が充実している。
書 写	光村	○「基礎編」「学習編」「資料編」の3部構成になっている。「学習編」は、1教材が見開き2ページになっていて、書き込み式のワークシートや振り返りチェックにより、主体的な学習ができるよう配慮されている。 ○楷書と行書を比較し、濃淡のある朱墨や点線を使って筆脈をわかりやすく示し、硬筆でのなぞり書きで点画や筆順の特徴を身に付けることができる。
社 会 (地理)	東書	○今日的課題や社会的事象について3分野相互の関連を図った教材やコラムにより、多面的・多角的に考察する力を育成できる構成になっている。 ○各州や地方の学習のまとめにおいて、ウェビングマップ・図・表・地図など様々なまとめ方を提示し、まとめ方を学ぶことができるようになっている。
社 会 (歴史)	東書	○章末と次章の始めの見開きページにおいて、年表形式で時代と時代のつながりを示し、小学校社会科との関連にも配慮されている。 ○見開き左ページの下段に「小年表」を掲載し、本時ほどの時代を学習しているかをとらえやすく、歴史の大きな流れを常に意識させることができる。
社 会 (公民)	東書	○「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方について、1単元の学習だけでなく、公民的分野の学習全体をとおして学べるようになっている。 ○3分野の学習をとおして追究・考察した「環境・エネルギー」「伝統文化・宗教」「防災・安全」「人権・平和」のテーマ学習の集大成として、レポートを作成するようになっており、4つのテーマが最後まで貫かれている。
社 会 (地図)	帝国	○「地図をみる目」「やってみよう」などの学習課題を随所に設定し、地図活用の技能を習得できるようになっている。 ○鳥瞰図・大観図(ながめてみよう)・衛星画像等の資料を豊富に掲載し、興味関心をもって活用できるようになっている。
数 学	東書	○学習のまとまりごとに「めあて」を明確に示し、生徒が見通しをもち主体的に学習に取り組めるようになっている。 ○発展させたり様々な場面で活用したりするための課題を多く設定するとともに、互いに学び合い、自分や友だちの考えを話し合いを通して深めていけるよう構成されている。
理 科	東書	○各単元で科学的に探究する方法やその過程が具体的に示され、生徒が主体的に学べるようになっている。また、「予想しよう」「考察しよう」などが適切に配置され、思考力や表現力を高めることができる構成になっている。 ○写真やイラストの色合いやバランスがよく、文字の書体や大きさも配慮があり、見やすい教科書づくりが徹底されている。
音 楽 (一般)	教芸	○音楽文化について理解が深まるよう、幅広い分野から教材を取り上げ、学習の目標と「学習の窓口」が関連して示されており、ねらいが明確である。 ○コラムやワークシート形式を取り入れてあり、発達段階に応じて興味をもって学習できるよう配慮されている。
音 楽 (器楽)	教芸	○なじみのある楽曲を取り入れ、アンサンブルを通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫がされている。 ○日本の伝統音楽の楽器編成など、わかりやすく詳細な記載があり、日本の音楽文化について理解を深めることができる。
美 術	日文	○生徒が自己の3年間の成長を見つめ実感できるよう、「自分」「他者」「社会」「自然」といったつながりと広がりのある題材構成となっている。 ○教科書のサイズが大きく、紙質を変え、原寸大の作品を掲載するなど豊かな情操を養う工夫をしている。
保健体育	東書	○教科書が大きい分、見やすく、生徒にとって表現がわかりやすい内容になっている。 ○学年の学習内容が明確にわかるようになっている。また、他教科との関連が本文の中に示されている。
技・家 (技術)	開隆堂	○生徒の興味・関心・意欲を高め、問題解決的な学習が進めやすく、生徒の思考力・判断力・表現力を育成できる構成になっている。 ○「学習の目標」「小課題」「ふり返り」等、生徒は主体的に学び、創意工夫する力を養い、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術が習得できるよう配慮されている。

技・家 (家庭)	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味・関心・意欲を高め、問題解決的な学習が進めやすい構成になっている。また、小学校との系統性が適切に図られている。 ○「学習の目標」「小課題」「ふり返り」等、生徒は主体的に学び、創意工夫する力を養い、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術が習得できるよう配慮されている。
英 語	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○到達目標がひと目でわかり、基本事項を左側ページで最初に学習し、理解・習得を十分に積んだ後、本文の学習に進むことができる構成になっている。 ○生徒にとって興味深い題材が用意されていて、生徒が自分の立場で考えられるようになっている。 ○文字が見やすく、色分けが効果的であり、学習者にとっても分かりやすい。

新編 新しい国語

書名 項目	2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○本編、基礎編、資料編の3部構成で、基礎編、資料編では、本編の学びを深める内容が配列されている。</p> <p>○言葉の力をつけるために、多彩な言語活動を重視し、社会生活に必要な力を習得して活用できるよう、系統的に教材が配列されている。</p> <p>○四季に関する表現や生活に根ざした歳時記を積極的に取り上げ、伝統文化に親しみ先人の教えから学ぶ態度を育てるよう、教材が配列されている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「言葉の力」では、学年ごとに習得と活用を繰り返しながら、3年間で系統的に基本的な知識、力が積み上がるように配列されている。</p> <p>○教材ごとに基本的な学習用語を確認、整理できるページが設けられている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「学びの扉」「学びを支える言葉の力」では、各領域に共通して必要となる「言葉の力」を鍛えるよう、学習で身につけた力を活かすことができる演習が組み込まれている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○巻頭折込みに学習の見通しを持たせるための教科書の使い方があり、自主学习でも生徒自身が身に付けるべき学習のポイントが示してある。</p> <p>○1年間の学習の流れが教材名とともに図式化されている。</p> <p><言語感覚を養うための工夫></p> <p>○文法教材は、ゲーム感覚で学べる「文法の窓」と文法事項が整理されている基礎編「文法解説」で構成されており、練習問題により文法の定着が図れるようにされている。</p> <p>○巻頭「四季を楽しむ言葉」で、写真も参考にしながら四季を楽しむ暮らしと言葉に関心が持てるようにされている。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○各学年とも「読書」の学習教材に読書案内が施され、テーマ別や名作紹介など生徒の多様な興味に応じられるように配慮されている。</p> <p>○1年の古典の学習では「古典の世界」という特殊教材があり、古典学習の導入に工夫が見られる。</p> <p>○1年の段階で「著作権と引用」について解説し、著作者の権利について意識させている。</p>
資 料	<p>○巻頭の折込みに、国語学習の意義と進め方や1年間の見通しが示されている。</p> <p>○キャラクターが効果的に用いられていたり、文法学習ではゲーム感覚で学習できるようになっていたりして、学習意欲を高める工夫がされている。</p> <p>○「読書案内」では、読んでみたいという関心させるための簡単なあらすじが掲載されている。</p>
表記・表現	<p>○活字が見やすく重要な部分の認識がしやすいように、文字の大きさと書体、罫線や囲み、色使いが工夫されている。</p> <p>○小学校で学習していない漢字には、ふり仮名が振られ、生徒の抵抗感がないようにされている。</p>
総 括	<p>○全学年7つの単元と「基礎編」「資料編」で構成されており、「読むこと」では、「読み取る」「考えを深める」の2段階の学習課題を示している。それぞれの教材で身に付けさせたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示して、3年間で系統的に積み上げさせるようにしている。「学びの扉」で学習した後、「学びを支える言葉の力」で国語学習の基礎を学べるようになっている。</p>

中学校国語

<p>書名 項目</p>	<p>1 1 学 図</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○本編は「絆」「生命」「群像」「伝統」「世界」の5つの単元で構成されており、それぞれに親しみやすい課題に取り組むことで、各指導事項が習得できるよう工夫されている。 ○各学年の目標・内容が漏れなく指導できるように、課題の発見、解決するための体系的な学習や学習の振り返り、実際の言語生活へのフィードバックという一連の学習の流れが確保されている。 ○古典の世界をより深く味わうためのコラムや、扉ごとに紹介されている詩歌などをおおして、伝統的な言語文化に対する関心や認識を深めさせるよう工夫されている。</p>
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○「読むこと」で学習の仕方や身に付けたい力がチェックできるように「学びの窓」や「ついた力を確かめよう」のコーナーが設けられ、わかりやすい設問で構成されている。 ○「漢字を見抜く」では漢字の基本的な成り立ちから歴史などを説明し、例も多様である。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○「発見する読み」では物語を読み進めるヒントが書かれ、視点を変えて思考力を深めようとしている。 ○教材ごとの確認問題に解答スペースがあり、生徒が解答しやすくなっている。 ○「活動を考える」では話を聞いた後、話すポイントを決めて演習へとつなげている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「学びの窓」では「読む前に」「読み深める」「まとめ」の順で学習を進め、最後に自己評価の流れで構成されており、自主的な学習が取り組みやすくなっている。 ○教材の下段に目標が明記され、身に付ける力がチェックしやすいようになっている。 <言語感覚を養うための工夫> ○単元扉に短い詩を載せて、声に出そうと意欲付けをしている。 ○漢字や古典学習に力を入れている。漢字は段階を踏んで学習できる構成となっている。 ○現在活躍している作家の作品を多く起用し、現代的な言語感覚を磨くようにしている。 <国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫> ○共通のテーマで単元設定がされており、テーマを意識して学習に臨むことで、系統的な力が身に付くよう工夫されている。 ○古典の言葉や生活に興味・関心や理解を深めるために、語釈や古方位等の解説がある。 ○教材の最後に「読書を広げるために」という本の紹介コーナーがある。</p>
<p>資 料</p>	<p>○全学年で日本の文学史年表や、文法活用表があり、確認しやすい工夫がなされている。 ○色調が落ち着いており、言葉とともに内容の理解やイメージ・思考を深めさせる口絵や挿絵が用いられている。 ○各領域の色を統一し、今何を学んでいるのかわかるように整理された、シンプルな表記がなされている。 ○巻頭では、小学校で学んだ作品を例に挙げ、中学校への接続に配慮されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○脚注では、語句の意味や対義語が説明されている。絵や図を使っている部分もある。 ○中1・2年では、脚注に新出漢字だけでなく、小6で学んだ漢字も示されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○全学年5つの共通したテーマ別の単元と「言葉の学習」で構成されており、学年が進むごとに掘り下げた内容となっている。「学びの窓」では、「読む前に」「読み深める」「まとめ」の3段階の学習課題を示して教科書に書き込める欄を設けており、「ついた力を確かめよう」では各自の学習の成果を確認する設定になっている。学習者に応じた学習活動が可能となるように、各単元に活動の選択が可能な教材が設けられている。</p>

現代の国語

書名 項目	15 三省堂
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○本編と資料編の二部で構成され、本編では目標を設定し、思考力や表現力を伸ばす手立 てが示され、資料編では実践的な方法や知識がまとめられている。</p> <p>○「見通し」と「振り返り」を明確にし、学び方を学び、活用する実践力を身につけるた めの内容が配列されている。</p> <p>○写真やイラストを用いたり、口語訳や解説を充実させることで、伝統的な言語文化に対 し、関心を持って学べるよう工夫されている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○学習の系統性を重視し、それぞれの学年で身に付ける力が明確にされている。また、教 材は小学校からのつながりをふまえ、基礎基本から取り組めるようになっていいる。ねら いが すっきりとしていて、見通しをもたせ、学習の振り返りもできる工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「学びの道しるべ」で目標を設定し、読み方、考え方のヒントが示されている。</p> <p>○個の学習を保障しつつ、交流、協働する活動を通して、自己の思いや考えを深めたり、 集 団としての問題解決を図る場が設けられている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、「読むこと」の教材と関連づけて示されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○領域別教材一覧が見やすく、目次に文種が明記されている。</p> <p>○各教材に学習目標を示し、学び方と過程を意識しながら学習し、やり遂げた達成感と次 への課題や生活実践に生きる力を実感できるように、各教材や課題が設定されている。</p> <p><言語感覚を養うための工夫></p> <p>○中学校段階でふれておきたい作品や言語文化を取り上げ、現代での価値を理解させなが ら、知識と感性を育み、言語感覚を豊かにする工夫がされている。</p> <p>○「読む力を伸ばそう」では、A～Cのコースから課題を選ぶことによって様々な方法 があることが示されている。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○作品ごとに「小さな図書館」といった読書案内があり、一言ずつコメントが付されてい て読書意欲をそそる工夫がされている。</p> <p>○各単元の初めのページに学習目標が明記され、身に付けさせたい力について見通しを持 たせている。</p>
色	<p>資 料</p> <p>○読書の広場、考える広場、参考資料などが充実しており、学習者が興味・関心をもてる 工夫がされている。</p> <p>○伝統的な言語文化の文章などは、写真や絵巻などをともに提示し、わかりやすく示され ている。</p> <p>○巻頭に一覧で、つきたい力と言語活動例が示されている。</p>
表記・表現	<p>○活字はとても見やすく、識別しにくい配色を避け、色の濃淡や罫線などの工夫もされ、 使 いやすいよう配慮されている。</p> <p>○必要に応じて、図やグラフ等のデータが示され、絵の説明がされている。</p>
総 括	<p>○中1・2は7つの単元、中3は6つの単元の「本編」と、「資料編」で構成されている。</p> <p>「学びの道しるべ」では、読むことについて「内容を整理しよう」「考えを深めよう」「学 びをひろげよう」の3段階の学習課題が示されている。「読み方を学ぼう」では、何を どのように読めば力がつくのかという読みの方略を図解で示し、それぞれがどのような 言語活動の中で活用できるのかが説明されている。</p>

伝え合う言葉 中学国語

書名 項目	17 教出
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○本編は7～8の単元で構成され、言語と文法、漢字、言葉の自習教室が後半に設けられ、言葉の力を確実に身につけられるように工夫されている。</p> <p>○国語学習としての習得や活用だけでなく、伝え合う力の育成を目指し、日常生活や他教科の学習にも活かせるように教材が工夫されている。</p> <p>○日本の伝統文化を継承する態度を育成するために、視覚資料やコラムを充実させ、古典に興味を持ち、楽しみながら学べるよう教材が配列されている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各教材で身に付けさせたい力が整理されており、習得から活用への流れをふんだ学習が簡潔にできるように工夫されている。</p> <p>○教材ごとに「ここが大事」という解説が設けられており、その教材で掴ませたい基礎的な技能が習得できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「みちしるべ」では、確かめよう、深めよう、考えようの3段階で考えを深め、わかりやすい設問で、表現する力を身に付けられるように配慮されている。</p> <p>○「ここが大事」で様々な文章の読解方法を示し、考え方のヒントを与えている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「みちしるべ」では具体的な言語活動を、「ここが大事」では学習のポイントを確認するという一連の流れを教材化して、考えながら自ら学習活動に取り組みせる工夫がされている。</p> <p>○学習したことをもとに、さらに活用できる課題が施され、学習意欲を高めている。</p> <p><言語感覚を養うための工夫></p> <p>○国語学習の習得に留まらず、実生活や他教科にも生かせる工夫として、全ての言語教材に1ページの導入教材を設けている。</p> <p>○各学年の巻末に「言葉の自習室」があり、読み物や伝え合う活動に必要な資料がある。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○1年の導入単元は、小中連携の視点を踏まえ、小学校で学んだことを基に学習が進められるように、作品や学習活動が配慮されている。</p> <p>○古典教材では視覚資料の充実、コラム教材の設定により、伝統文化を継承する態度を育てる工夫がされている。</p>
色	<p>○色彩はあまり多くの色を使わず、作品を象徴する色が使われており、生徒の発想の広がりをもつ工夫がされている。</p> <p>○図版を多用し、わかりやすく解説されている。</p> <p>○話す・書く活動を通して、伝え合いが円滑にいくための資料が提供されている。</p>
表記・表現	<p>○発達段階に応じた字の大きさが用いられている。本文は行間を広くとり、書き込みができるようになっている。</p> <p>○学年ごとに学習テーマが色別で表示されており、生徒が強く印象に残るような工夫がされている。</p>
総 括	<p>○中1・2は8つの単元、中3は7つの単元と、言葉と文法、漢字、言葉の自習室で構成されている。「読むこと」では問題解決の道筋に沿って学習ができるように「確かめよう」「深めよう」「考えよう」の3段階の学習課題が示されている。言語活動を重視し、言葉の力を高めるために、身につけさせたい力や学習のポイントが明示されている。「学びのチャレンジ」では、思考・判断・表現力を高めるための発展的な問題が設けられている。</p>

新編 新しい書写

書名 項目	2 東 書	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかり	<p>○楷書と行書の文字を整えて書くためのポイントとして、動きのパターンと形の特徴をインデックスにして毛筆教材の近くに示し、確認できるようにしている。</p> <p>○書写の学習を生活に関連付け、目的や必要に応じて楷書と行書を選択できる力を養わせるために、多様な場面での話し合い活動を取り入れている。</p> <p>○学校生活や社会生活に実際に生かせる手書き文字のよさが、資料の掲載によって伝わるようにしている。</p>	
特 内 容 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○3段階の学習のてびき（「調べよう」「確かめよう」「広げよう」）で、単元ごとの学習の流れがひと目でわかり、基礎・基本の習得や気づきを育てる構成になっている。</p> <p>○毛筆では、穂先の動きが濃淡のある朱墨で示してある。手本の横に「書くときのポイント」を掲載している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○学習に関連しているページを示すマークを設け、学年をまたいで学びを広げたり、学習の参考にしたりできるようにしている。また、キャラクターのセリフや「しょしゃのつぼ」による解説によって、課題を意識しながら取り組ませるように構成している。</p> <p>○毛筆の学習の後に、関連した硬筆教材を配置し、両者に関連させながら学習に取り組ませるよう構成している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○①学習の目標と自分の課題を確認する②課題を解決するために練習する③振り返る④活用する・発展、という「学習の進め方」で、流れを説明している。</p> <p>○学習の目標と連動した「振り返ろう」を設定し、自己評価項目に照らし合わせながら、「できた＝○ もう少し＝△」から選び、記入させるようにしている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○「生活に広げよう」「生活を豊かにする文字」の単元を設け、手紙や掲示物、職場訪問や防災訓練などの取組を題材に、生活と書写との関連を提示している。</p> <p>○毛筆の学習を通して硬筆では気付きにくい文字の書き方を身に付け、毛筆の学習の後に「広げよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆の関連を図っている。</p>	
	資 料	<p>○「姿勢・筆記具の持ち方」を、写真や原寸大のイラストを使って解説している。</p> <p>○巻末の「資料」に「いろいろな書式」「書写テストに挑戦」「漢字の成り立ちと移り変わり」「書き初め」「季節の言葉」、随所にコラム「しょしゃのたね」を写真図版と解説を交えて掲載している。</p> <p>○「常用漢字表」と「人名用漢字表」は楷書体と行書体を併記している。</p>
	表記・表現	<p>○毛筆手本の中心を記号で示している。始筆、送筆、終筆を「トン」「スー」「ピタッ」と言葉とイラスト、写真で分かりやすく表記し、運筆感覚をとらえる指導に対応しているほか、点線・濃淡・穂先の図で示してある。案内役のキャラクターが学習目標や学習の進め方、振り返りを示している。</p>
	総 括	<p>○ABの判型である。「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「学習のふりかえり」という学習の流れが分かるよう工夫されている。また、「書いて味わおう」のページを設け、全学年、国語科と関連した古典教材を取り上げ、伝統文化に触れられるよう配慮されている。毛筆で学習したことを硬筆の学習で確認・発展させるよう構成している。巻頭の「学習のはじめに」で「これから学ぶこと」を示し、「姿勢・筆記具の持ち方」が大きな写真イラストで示している。</p>

中学校 書写

書名 項目	1 1 学 図
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○始筆・終筆・筆脈を点線や矢印で示し、楷書と行書の違いやそれらに調和した仮名の書き方を言葉によって解説し、理解をうながしている。</p> <p>○楷書と行書を目的や場面によって使い分けられることができるように、楷書と行書を書く場面を設定し、写真による資料も掲載している。</p> <p>○コラム「書写の窓」で、文字の歴史が私たちの書き文字につながっていることを示している。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○教材ごとに、「目標」がタイトルとして明確に示してある。「楷書に調和する仮名」に中心線が引かれ、文字のバランスを身につけさせるようになっている。</p> <p>○毛筆では、基本的な点画について、穂先の動きが朱墨と薄墨を用いて示してある。手本のあとに解説を加え、中心や筆順を確認させるようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年の取組において段階を追って章立てられ、学習者にねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。また、硬筆、毛筆ともに字形を整え、中心を意識して書くことを重視した構成となっている。</p> <p>○写真や図版による手本を提示することで、学習者に自分の字と比較しながら取り組ませるように配慮している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「学習の進め方」として、①試し書き②練習③まとめ書き④硬筆で書く、という一連の流れを視覚化して説明している。</p> <p>○「振り返って…」では、学習の目標と連動した複数の自己評価項目に照らし合わせ、活動を振り返らせるようにしている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○「書写を生かそう」の単元を設け、職業体験や文化祭など学校内外の社会に関わる取組を題材に、生活と書写の関連を提示している。</p> <p>○毛筆の学習の後に「硬筆で書いてみよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆との関連を図っている。</p>
色	<p>○「書くときの姿勢」「筆の各部の名称・働き」等を、写真を使って解説している。</p> <p>○各学年の最後に楷書と行書の「書き初め」を、巻末の「資料編」には「楷書のいろいろな書き方」「書き文字と活字」を単色で、また、随所にコラム「書写の窓」を写真図版と解説を交えて掲載している。</p> <p>○「漢字一覧表」は常用漢字を行書体で示している。</p>
資 料	<p>○毛筆手本の中心を記号で示し、手本と別に中心線やポイントを記号・点線・濃淡・穂先の図で示してある。全ての手本を半紙の原寸大で示している。学習目標と学習の進め方、振り返りが別枠で示してある。楷書の字面の許容についてページを割いている。案内役のキャラクターが学習のポイントを示している。</p>
表記・表現	<p>○B 5 変型の判型である。毛筆の主たる手本を見開き 2 ページで示している。学習の目標や振り返りのポイントを簡潔に示し、毛筆の学習で学んだことを硬筆で確かめ、硬筆の学習に生かすように構成している。また、書写の学習をどのように生活に生かすかは、3 年の学習でまとめて取り組ませる構成になっている。「書写の窓」で観賞ページや発展的な内容を紹介している。書き初めの手本は各学年の最後の教材として別々に掲載している。</p>
総 括	<p>○B 5 変型の判型である。毛筆の主たる手本を見開き 2 ページで示している。学習の目標や振り返りのポイントを簡潔に示し、毛筆の学習で学んだことを硬筆で確かめ、硬筆の学習に生かすように構成している。また、書写の学習をどのように生活に生かすかは、3 年の学習でまとめて取り組ませる構成になっている。「書写の窓」で観賞ページや発展的な内容を紹介している。書き初めの手本は各学年の最後の教材として別々に掲載している。</p>

現代の書写

<p>書名 項目</p>	<p>1 5 三省堂</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかり</p>	<p>○筆使いが朱墨と薄墨を使って示してあり、筆圧、軸、穂先、筆脈(行書)等の基本を図や写真を取り入れながらポイントを押さえて簡潔に解説している。 ○楷書と行書の使い分けを、具体的な場面をいくつか提示し、話し合わせたり、実際に書き込ませたりするなど活動場面を多くして、自ら考えさせるように工夫している。 ○各学年に「生活に生かそう」という単元を設け、資料編では「日常の書式」を4回に分けて取り上げ、具体例を示し、書写の学習内容を様々な場面で生かせるようしている。</p>
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○教材毎に目標を明示し、「考えよう・話し合おう」で質問を投げかけることにより自ら考えさせ、「振り返ろう」で目標が達成できたかを確認させる形をとっている ○毛筆では、朱墨や薄墨で濃淡をつけ筆圧や穂先の動きを示し、筆使いの基本を習得させようとしている。毛筆で学習した内容を硬筆でも書いて確認させるようになっている。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○それぞれの教材が「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」で学習課題を意識して取り組ませる形を取っている。また、キャラクターの吹き出し形式で考えるヒントを与えている。 ○「生活に生かそう」「書体を使い分けよう」等の単元で、習得した技能を生かし、場面に応じて書体を選んで書く力をつけるようになっている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○目次の下に学習の流れや学習のヒントについて説明してある。また、最初に「自分の文字や書き方をよりよくするために」というテーマで主体的に取り組む姿勢を示している ○「振り返ろう」では、「～書けましたか。」「～できましたか。」と問いかける形で目標が達成できたか自己評価できるようになっている。 <国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫> ○「生活に生かそう」「効果的に書こう」の単元で、行事の目標、本の紹介、手紙、座右の銘、卒業記念冊子など様々な生活の場面と書写との関連を提示している。 ○「書いて確かめよう」では、毛筆と硬筆の両方で練習するようになっている。また、「学習のまとめ」で、学習したことを硬筆で確認できるようになっている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○姿勢と筆記具の持ち方、用具の置き方、片づけ方などの基本を、写真やイラストを交えて解説している。 ○「資料編」で、「日常の書式」「文字の変遷・文房四宝」「書き初め」「自分の文字」を取り上げ、本編でもコラム形式で文字や書に関する資料を掲載している。 ○「楷書・行書一覧表」を、小学校学習漢字と中学校学習漢字に分けて掲載している。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○毛筆手本の中心を記号で示し、筆使いのポイントを記号・点線・墨の濃淡、穂先の図と簡潔な言葉で説明している。各教材の学習過程がマークを使って統一表示されている。文字の整え方について、具体例を示しながらキャラクターの吹き出しによるヒントを参考に考えられるようになっている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○B 5 の判型である。まず目標を明示し「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」という学習過程で主体的に学習できるようになっている。毛筆で学習したことを硬筆で確認、まとめをする形をとっている。「生活に生かそう」という単元が各学年で独立していて、他の学習や生活に役立てる活動を多く取り入れている。「三年間で学んだ書写技能」というコーナーがあり、中学校での書写の学習の総復習ができるようになっている。</p>

中学書写

書名 項目	17 教 出
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○手本の文字に穂先の写真や点線、筆順を表す数字を示すことで、始筆・送筆・終筆の仕方をわかりやすく示している。</p> <p>○書く内容や目的に応じた書き方を話し合わせる活動例を示し、楷書と行書を使い分けたり、用具・形式・書き表し方を工夫したりする必要があることに気付かせている。</p> <p>○写真や図、作品例を数多く掲載し、書き表し方や取組の解説を示して、学習したことを日常生活に生かすような構成になっている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各教材で「目標」を明示している。「なぞり書き」や硬筆での練習枠を設け、文字のバランスを身に付けさせるようにしている。</p> <p>○毛筆では、基本的な点画の他、穂先の動きを濃淡のある朱墨で示したり、筆脈を点線で示したりしている。硬筆での試し書きの後、毛筆での書き方を学ぶ構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年の取組において段階を追って章立て、学習者にねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。目標を明示し、課題意識をもって取り組ませるようにしている。</p> <p>○「学習を生かして書く」教材では、授業や社会生活に関連した写真や資料を参考例として掲載し、比較しながら習得事項を活用させる機会を設けている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「学習の進め方」を①目標②試し書き③自分の課題を見つける④毛筆の学習を生かす⑤まとめ書き⑥振り返り⑦学習や日常生活に生かす、という流れで冒頭に示している。</p> <p>○「振り返ろう」では、その単元での学習の目標に合わせた評価項目が設定されており、それぞれの項目を「○=できた △=もう少し」で自己評価させるようにしている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○「学習を生かして書く」の単元を設け、原稿用紙、レポート形式、手紙、ポスター、案内状など、身近な書く活動を題材とし、生活と書写との関連を示している。</p> <p>○毛筆で学習したことを他の文字にも生かして書くために、各教材で「生かそう」という硬筆教材を設け、毛筆と硬筆との関連を図っている。</p>
色 資 料	<p>○「姿勢と用具の使い方」「毛筆・硬筆の置き方」等を、写真を使って解説している。</p> <p>○各学年の最後に「書きぞめ」の学習を取り入れている。巻末の「資料」には「書式の教室」と「補充教材集」を、また、歴史上の人物の文字や書に関する資料が数多く、写真や解説とともに掲載されている。</p> <p>○「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとに分類し、部首別に行書体で示している。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○毛筆手本の中心を記号で示している。筆使いのポイントを記号や数字、点線、朱墨の濃淡、穂先など様々な図で示している。仮名も含め、正しい筆順を示しているページが多い。学習目標と学習の進め方・振り返りには、特定のマークが示してある。振り返りでは目標に沿った評価のポイントを示し、自己評価する構成になっている。</p>
総 括	<p>○B5の判型である。巻頭の「目的に合わせて書こう」で「書く目的」ごとに「どんな力を身に付けるか」を示している。また、各学年の初めのページに改めて目次を設けており、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。見開き2ページの右に毛筆手本、左に「目標」「考えよう」等の学習項目を示す構成のページが多く、硬筆での練習機会も多く設けられている。発展的な内容や資料は、教材と教材の間のページに掲載し歴史上の人物や文学者の肉筆を掲載している。</p>

中学書写

書名 項目	38 光村
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○「字形の整え方」と「文字の大きさと配列」のポイントとなる事柄を、書き込むことで理解度を確認しながら学習する構成になっている。</p> <p>○目的や必要に応じて楷書と行書を適切に使い分けさせることができるように、写真や絵を用いて示し、理解が深まるようにしている。</p> <p>○言語生活を豊かにするためのコラムが掲載され、手書き文字のよさを伝えるための学習や生活に役立つ資料を写真や図版によって示している。</p>
特 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○教材ごとに「目標」を示している。「なぞり書き」や書き込み式の箇所を確認することによって、文字のバランスを確認させるようになっている。</p> <p>○毛筆では、点画の種類と筆使いについて、筆圧や穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。毛筆で学習した筆使いを生かして、硬筆に発展できるような構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年の取組において段階を追って章立てられ、ねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。また、教科書に文字のポイントを記入させたり、手本を見ながら練習したりする欄を設けることで、考えながら習得させるように構成している。</p> <p>○巻末の資料で、習得した内容を発展させるための手本や、手紙の書き方、新聞の書き方など生活において活用させる機会を設けている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「目標（学習の見通しをもつ）」→「学習の窓（学習・活動に取り組む）」→「学習を振り返る（次の学習に生かす）」という「学習の流れ」をわかりやすく示している。</p> <p>○「学習を振り返る」欄は、「できた＝○、もう少し＝△」を書き込めるようになっており、学習の目標と連動した自己評価をすることができ、学習の達成度がわかりやすい。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○例文に古文を引用しているところがあり、国語で学習したことを書くことによって、発展させる構成になっている。</p> <p>○毛筆の筆使いで学習した後、「学習したことを生かして書こう」欄で、硬筆の練習をすることにより、毛筆と硬筆の関連を図っている。</p>
資 料	<p>○「書くときの姿勢」「筆記具の持ち方」等を、写真を使って解説している。</p> <p>○巻末の「資料編」には「日常の書式」「活用のヒント」「書写事典」「書き初め」を、また、各学年の単元末を中心に文字や書に関する「コラム」を写真図版と解説を交えて掲載している。</p> <p>○「常用漢字一覧表」「部首別行書一覧」は楷書体と行書体を併記している。</p>
表記・表現	<p>○毛筆の手本には、△印を上下に置き、中心を示している。「点画の種類と筆使い」で、筆圧を「3の力、2の力、1の力」と表記している。「漢字の筆使い」では、「始筆『トン』、送筆『スー』、終筆『トン』」と表記している。学習目標と振り返りを別枠で示し、その他のポイントは、案内役のキャラクターが示している。</p>
総 括	<p>○B5の判型である。手本は見開き2ページの構成で、右ページでポイントを押さえ、左ページの手本で、毛筆に取り組めるようになっている。「学習の窓」で学習のヒントを示し、基礎・基本を身に付けさせるようにしている。「コラム」では、文字の歴史、季節の言葉を書いて味わう、デザインと文字といった書写に関する発展的な内容を取り上げている。「日常の書式」「活用のヒント」では、生活や各教科の発展学習の内容を掲載している。</p>

新編 新しい社会 地理

書名 項目	2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○写真やグラフ、地図などの資料で、本文の記述を補完し、基礎的・基本的な知識や概念を定着させ、地域的特色を明らかにするように配慮されている。</p> <p>○「地理にアクセス」「調査の達人」などを設け、話題になっている地理的事象や調査を進める上での技能などを示し、地理的な見方や考え方を育成するようになっている。</p> <p>○ページ初めで学習課題を提示し、章末に学習確認を行うことで、地域的特色に迫っていくようになっている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○地図を中心教材として概観、課題を設定し追求、まとめという流れで、基礎的・基本的知識が習得できる展開となっている。毎時間の流れもこれに準ずる。また、章ごとの確認のページでは内容を問題形式にし、知識の定着を図るようにしている。用語解説も充実している。本文は丁寧でわかりやすい表現をし、用語解説も充実している。「地理スキル・アップ」を分割し、「調査の達人」のコーナーを設け、調査学習の技能を学ぶようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開き右下欄外の「確認」では、本時で学習した内容やキーワード等を活用しながら短い文章でまとめたり、説明したり、予想したりすることで、思考力・判断力・表現力の育成ができるようになっている。</p> <p>○「地域の調査」で各州・地方のまとめを行う際に、様々なまとめ方（ウェブマップ・地図・表など）を提示している。まとめ方を学ぶことで、わかりやすくまとめる能力（思考力・判断力・表現力）の育成が図られている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○生徒の学習意欲を高めるため、「えんぴつマーク」「地理にアクセス」や「ティーブレイク」を設けており、主体的に学習に取り組ませるようになっている。</p> <p>○知識力・理解力を高めるために、さらに深く単元に迫ろうとするためのテーマとなる「深めよう」を設け、本文の学習内容を基礎にして、さらに追求できるようにしている。</p> <p><地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫></p> <p>○導入部で取り組む「ためしてみよう」で基礎的な技能を活用して地理的な見方ができるようにしている。</p> <p>○「学習課題」を示すことにより、地理的な考え方の道筋を示し、「確認」で学習内容を活用して表現できるようになっている。</p> <p><我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫></p> <p>○冒頭の写真・グラフ等に対する挿絵の人物の問いかけが、その地域の生活に対する地理的認識を発見する手がかりとなっている。</p> <p>○地域の人物のインタビューコラムから、そこで生活する人々の実態やその土地への対応・思いを感じられるように工夫している。</p>
色	
資 料	<p>○各編第3章の諸地域学習には、世界の各州の導入部分にイラストを使用した地図や、自然や生活に関する写真が掲載され、日本の各地方の導入部分には各地方の「追究テーマ」に関連した写真が大きく掲載されている。</p> <p>○本文の理解を助ける「地理にアクセス」、地域で生活する人の様子を取り上げる「インタビューコラム」、余話を紹介した「ティーブレイク」などが掲載され、興味・関心を高めるよう工夫されている。</p>
表記・表現	<p>○全ての地名と難解な固有名詞や社会科特有の用語などにはふりがなが付けられている。</p> <p>○資料に付した「図番号」を本文にも付すことで効果的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○色覚特性がある生徒にも判別しやすい色や形状を工夫し、ユニバーサルデザインに配慮している。</p>
総 括	<p>学習課題について写真、グラフ、地図などの資料を使って考え、まとめをすることで基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っている。「地理スキル・アップ」「調査の達人」によって読図や作図などの技能を高め、「確認」や章末のみんなで考えるページで思考力・判断力・表現力等を高めるようになっている。</p>

中学社会 地理 地域に学ぶ

<p>書名 項目</p>	<p>17 教出</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○ページの初めに学習課題を提示し、「ふりかえる」で発展的な課題を提示することにより、地域的特色等を考察し、基礎的事項の確認、整理などの表現活動ができるようになっている。 ○各章のまとめで作業学習を取り入れたり、自分の言葉で表現させたりすることで、地理的な見方や考え方を育成するようになっている。 ○「地理の窓」や世界の各州や日本の各地方での事例をもとに、今日的課題に迫る特設ページを設け、個に応じた学習が進められるようになっている。</p>
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○見開きページの始めで資料と説明文から学習課題を導き出し、最後に「ふりかえる」のコーナーで整理することにより、基礎的・基本的知識を習得するようになっている。「身近な地域の調査」で地形図の見方や活用について取り上げている。「学習のまとめと表現」で節ごとの知識の定着を図るようにしている。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○見開き右下欄外に「ふりかえる（ステップ2）」が設定されている。地理的現象についての説明や話し合いなどの表現活動によって、思考力等を高めるようになっている。 ○単元の終わりに、「学習のまとめと表現」のページが設けられている。この課題を自分の言葉で説明することで、思考力・判断力・表現力等を育成できるようになっている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○地域の話題や身近なできごとを紹介する「地理の窓」を設定して、興味・関心を高め、主体的に学習に取り組ませるようになっている。 ○学習した知識を生かし、より現実的なテーマに主体的に取り組める「地域から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」を設けている。 <地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫> ○導入での「見てみよう」では学習のきっかけや追究の中心となる資料へを捉えたり、「読み解こう」で資料を読み取り考えを深めたりすることで地図やグラフから地理的な見方ができるようにしている。 ○「学習課題」を示すことにより、地理的な考え方の道筋を示し、おもに「ふりかえる」のステップ2で学習内容を活用して表現できるようになっている。 <我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫> ○冒頭に登場する挿絵の人物の問いかけが、その地域の生活に対する地理的認識を養うためのきっかけとなっている。 ○地域の人物の発言や「地理の窓」から、そこで生活する人々の実態、思いや地域の特徴をとらえるように工夫されている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○両開きの折込ページに、ダイナミックな衛星画像や伊能忠敬の日本地図、鳥瞰図などが掲載され、地図への興味・関心と資料活用能力を高めるように工夫されている ○巻頭の扉ページには、生徒が触って体感することができるように、点字の加工が施されている。 ○巻末の「用語解説」は、地理的用語を6項目に区分し、わかりやすく、詳しく解説するとともに、その用語が重要語句となっているページを参照できるように工夫している。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○地名・人名等の固有名詞や社会科特有の用語などには、ふりがなが付けられており、第1学年の学習範囲には小6の学習配当漢字にもふりがなを付けることで、読みのつまづきが軽減するように配慮されている ○資料に付した「図番号」を本文にも付すことで、効果的に学習できるよう工夫されている。 ○色覚特性がある生徒にも判別しやすい色や形状を工夫し、ユニバーサルデザインに配慮している。</p>
<p>総 括</p>	<p>学習課題の提示や写真・グラフなどの諸資料、作業学習などにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、発展的な課題の提示や「ふりかえる」によって、個に応じた学習が進められるようになっている。また、「見てみよう」「読み解こう」で資料の読み取りや活用の力を段階的に高められるようになっている。</p>

新編 新しい社会 歴史

項目 書名	2 東 書
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の大きな流れを理解させるために「時代を概観しイメージする導入部」→「通史の学習をする展開部」→「時代の特色をまとめる終結部」という流れになっている。 ○我が国の歴史や人物を尊重する態度を育てるために、多くの文化遺産が取り上げられるとともに、近代史以降の人物を扱うコラムには郷土の偉人の出身県が記述されている。 ○多文化共生の重要性を学び国際協調の精神を育てるため、イスラム文化やアイヌ文化を扱う「深めよう」やジャポニズムを紹介する「歴史にアクセス」が設けられている。 ○多面的・多角的に考察する力を育てるために、地理・歴史・公民3分野の学習内容の関連が図られ、共通の資料を各分野の視点で考察する活動が設けられている。
<p>特 内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、確認で構成されている。効果的に学習内容の理解を図るため学習した内容を振り返る「ワーク」が設けられている。 ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける「歴史スキル・アップ」、学習した知識・概念を確認する「この時代の歴史の学習を確認しよう」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き右下部の欄外に「確認」という課題が設定されている。毎時間の授業内容を自分の言葉で要約したり、説明したりすることで、思考力・表現力等の育成を図れるようになっている。 ○各時代のまとめにおいて、様々なまとめ方（ウエビング図・比較表・ディスカッション・新聞等）を学ぶ学習が設けられている。この課題に取り組むことで思考力・表現力・表現力を育成し、適切なまとめができるように工夫されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○時代ごとに事例を示した「私たち歴史探検隊」では、調べ学習での言語活動の事例を紹介し、ポイントを「調査の達人」の形で示している。 ○節の終末で「深めよう」のコーナーがあり、学習した歴史が現代にどのように関わっているかなど興味・関心を高める工夫がされている。
<p>色</p>	<p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国宝、重要文化財、世界遺産にマークが付けられている。 ○古事記、日本書紀にある神話は各地の神楽と関連付け見開き資料で紹介している。 ○領土をめぐる問題については竹島・北方領土・尖閣諸島をコラムで扱い、資料を掲載し、その歴史的背景とかかわらせ見開き資料で紹介している。 <p><我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入として、時代の流れを大観させるとともに、小学校で学習した資料を通してこれから学習する時代がどのような時代かイメージさせるようになっている。 ○各時代のまとめとして「この時代の特色をとらえよう」で、人物と事柄をつなげたり、図で示したりするなどして時代の特色を様々な方法でまとめる学習が設けられている。 ○各時代のまとめとして、「この時代の歴史を確認しよう」で、年表をもとに各時代のおもなできごとを整理する学習が設けられている。なお、この年表は次の時代の年表と見開き構成になっている。
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習の動機付けや追求の中心となる、導入資料や中心資料が写真などで大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織の仕組み等が掲載されている。資料には出典・所蔵のほか、資料の大きさが記されているものもある。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに見通しをもつための課題・学習内容をさらに深めるための課題の2つが示されている。 ○項目ごとに、どの時代を学習しているかをページの下段の年表に色で表し、地理や公民と関連が深い内容には関連マークがついている。 ○本文は敬体で、用語解説のページや参照ページが示され、資料には、見開きごとのまとめりで通し番号が付けられている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A B判を採用している。 ○「私たち歴史探検隊」では「身近な地域の歴史」を調べることを通して社会の形成者としての資質を養ったり、現代の事例を通して身近な地域の将来について提案する活動を設け、社会参画への意識を高めたりするよう配慮している。

中学社会 歴史 未来をひらく

項目	書名 17 教出
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の大きな流れを理解させるために章末に「学習のまとめと表現」に時代の移り変わりを大観する構造図を掲載し、その時代の特色について考察・表現する活動を設けている。 ○我が国の歴史や人物を尊重する態度を育てるために、巻頭部に社会を築き動かしてきた先人たちが取り上げられるとともに「歴史のなかの言葉」が掲載されている。 ○多文化共生の重要性を学び国際協調の精神を育てるために、実際に触れる点字を活用した「点字の歴史」や、国際平和への取組を紹介する「歴史を探ろう」が設けられている。 ○一つの事象を多面的・多角的に考察する力を育てるために、歴史的事象についての説明や話し合いなどの表現活動に取り組む課題が設けられている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、導入資料、「学習課題」、本文、「ふりかえる」で構成されている。時代背景を把握させるため各節の単元は「世界→日本」の順で配列されている。 ○基礎的・基本的な技能の習得を図るために本文の学習の流れに即した「読み解こう」や「学習のまとめと表現」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き右下欄外に「ふりかえる」という課題が設定されている。「～を説明しよう」という課題に毎時間取り組むことで思考力等の育成ができるようになっている。 ○教科書欄外には「読み解こう」という課題が設定されている。ここでは、絵・地図・グラフ等を読み取る学習を行い、思考力等の育成ができるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文の学習を広げたり深めたりする「学習課題」や、関連する内容を紹介する「歴史の窓」、特設ページ「○○の（から）歴史を探ろう」が設けられている。 ○単元の終わりでは、「時代の変化に注目しよう」があり、生徒がその時代の特色を具体的に考えやすくなっている。
色	<p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国宝、重要文化財、世界遺産にマークが付けられている。 ○古事記や日本書紀に記された神話を当時の生活に関連付けて、古代の人々の信仰やものの見方が見開き資料で紹介されている。 ○領土をめぐる問題については、地図資料を中心に紹介されている。 <p><我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入として、その時代と関連のある資料を取り上げ、登場人物の疑問から、これから学習する時代のイメージをつかませる「とびら」が設けられている。 ○各時代の特色やその背景を追究し、歴史を掘り下げていくさまざまなテーマ学習を紹介している「特設」ページが設けられている。 ○各時代のまとめとして、「学習のまとめと表現」で、年表や地図で時代の移り変わりを大観し、その時代のできごとや動きを自分の言葉で説明する学習が設けられている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習の動機付けや探求の中心となる、導入資料・中心資料が写真などで大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織の仕組み等が掲載されている。「読み解こう」の表記があり、資料を読み解くヒントや視点が示されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに見通しをもつための課題・学習内容をさらに深めるための課題の2つが示されている。 ○項目ごとに、どの時代を学習しているかを「時代スケール」として示し、小学校で学習した人物と新たに学習する人物をマークで区別している。 ○本文は敬体で、用語解説のページや参照ページが示され、資料には、見開きごとのまとめりで通し番号が付けられている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A B判を採用している。 ○「未来をひらくために」では、これからの社会を築いていくために、自分たちが社会とどのようにかかわればよいかを考察させ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮している。

中学 歴史 日本の歴史と世界

書名 項目	3 5 清 水
教育基本法、 学校教育法の下、 学習指導要領の教科の 目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の大きな流れを理解させるために、序章に時代ごとの特色を把握し、まとめるための具体的方法（Yチャート）が提示されている。 ○我が国の歴史や人物を尊重する態度を育てるために東アジアをはじめとする世界の諸地域と関連しながら特色ある伝統と文化が形成・発展してきたことが記述されている。 ○多文化共生の重要性を学び国際協調の精神を育てるために、日本を含む世界の歴史上の人々が自己の郷土や国家の発展に尽力してきたことが記述されている。 ○一つの事象を多面的・多角的に考察する力を育てるために、史料の読み方や扱い方などの学び方が紹介されており、各時代冒頭を含めて随所に問いかけが設けられている。
特 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「まとめてみよう」で構成されている。各時代章扉の問いかけに呼応した学習のまとめを行う構成である。 ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける「歴史のとびら」、学習した知識・概念を確認する「まとめてみよう」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元中に「もっと知りたい歴史」（歴史に関するエピソード）が7つ設定されている。これにより、各時代の特色を様々な視点から考察できるようになっている。 ○見開き右下欄外には「まとめてみよう」という課題が設定されている。学習内容を文章にまとめたり、表に整理したりすることで思考力等の育成が図れるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章末の「まとめてみよう」で、学んだできごとを整理し把握する年表と、学習した内容を自分の言葉で表現することを促す学習活動が各時代に設けられている。 ○「歴史のとびら」では、多くの資料や体験談などにより、その時代について深く学べる工夫がされている。 <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国宝、世界遺産にマークが付けられている。 ○古事記、日本書紀に加え風土記の内容も網羅しながら、出雲国を紹介しながら神話について見開き資料で紹介している。 ○領土をめぐる問題については、北方領土を扱った本文で紹介されている。 <p><我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○序章で、資料を用いて大きな時代の流れと各時代の特色をつかませる、各時代の「キャッチコピーづくりをはじめよう」という学習が設けられている。 ○各時代の導入として、その時代の特徴的な資料を示し、資料に関連してその時代の特色をつかむための課題が示されている。 ○各時代のまとめとして、「まとめてみよう」で、年表や資料でおもなできごとを整理するとともに、各時代の政治や文化について基本的な語句を使って説明する学習が設けられている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習の動機付けや探求の中心となる、導入資料・中心資料が写真や地図などで掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織の仕組み等が掲載されている。資料を読み解くヒントや視点が示されている。
表 記・表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに「学習のめあて」学習課題を文章でまとめる「まとめてみよう」が示されている。 ○本文は常体で、参照ページが示され、資料には、見開きごとのまとめで通し番号が付けられている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、B判を採用している。 ○見開き資料やコラムでは、民主主義や基本的人権、男女の平等などが先人たちの努力によって歴史的に獲得されたものであることが記述され、社会に主体的に参画することの必要性が理解できるように配慮されている。

社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き

項目	書名	46 帝国
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の大きな流れを理解させるために、各時代学習の冒頭にその時代の一場面を2ページ大のイラストで表現した「タイムトラベル」が設けられている。 ○我が国の歴史や人物を尊重する態度を育てるために、巻頭部に「日本各地の伝統行事と祭り」、身近な地域の歴史の探究事例として「七夕まつり」が掲載されている。 ○多文化共生の重要性を学び国際協調の精神を育てるために、国家や地域の枠組みを超えて活動した人々の姿が「交流」、「平和」のコラムで紹介されている。 ○一つの事象を多面的・多角的に考察する力を育てるために、政治史・経済史・文化史の側面から捉える本文、地域史の視点から捉える「歴史を探ろう」が設けられている。
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、導入資料、「学習課題」、本文、「確認しよう」「説明しよう」で構成され、時代の特色をとらえる学習に配慮している。 ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける「技能をみがく」、学習した知識・概念を確認する「学習をふりかえろう」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き右下欄外に「説明しよう」という課題が設定されている。この課題に取り組み、自分の言葉でまとめ、表現することで思考力等の育成が図れるようになっている。 ○各時代の導入部に「タイムトラベル」というページが設定されている。このイラストから疑問やイメージを膨らませることで思考力等の育成が図れるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を広げたり深めたりする、特集「歴史を探ろう」では、生徒の興味・関心に応じて、学習が進められるようになっている。 ○章の始めに「タイムトラベル」として、生徒が自ら時代の特色について考えられる工夫がされている。 <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国宝、世界遺産にマークが付けられている。 ○コラムで古事記や日本書紀の神話を紹介する中で、他国の神話との共通点なども示されている。 ○領土をめぐる問題については、北方領土・竹島・尖閣諸島の歴史的背景や関連する条約や資料を見開き資料で紹介している。 <p><我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入に「タイムトラベル」を設け、見開きのイラストを通して前の時代との比較や疑問点の発見をさせ、これから学習する時代はどのような時代であるかをとらえられるようになっている。 ○各時代の文化を学習したあとに、その時代を改めて振り返る「時代をふりかえって」が設けられ、当時の政治や経済状況と文化の関係などが考えられるようになっている。 ○各時代のまとめとして、「学習をふりかえろう」で、年表や地図、資料をもとに時代の特色を整理するとともに、時代の特色を自分の言葉で説明する学習が設けられている。
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習の動機付けや探求の中心となる資料と地理的な知識を深めるための地図が大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織の仕組み等が掲載されている。「資料活用」の表記があり、資料を読み解くヒントや視点が示されている。
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに「学習課題」と「確認しよう」「説明しよう」が示されている。 ○各項目の右ページ端に学習している時代が示され、人物索引には分野ごとにマークが付けられている。 ○本文は敬体で、関連する事項には参照ページが示され、資料には、見開きごとのまとめで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号がつけられている。
	総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A B判を採用している。 ○「羅針盤」マークのコラムは、「自然」、「人権」、「交流」、「平和」の4テーマからなり、それぞれの資料から未来の社会をつくるために必要な知識を学び、新しい社会に合わせたしくみやモデルを創り上げていけるように構成されている。

中学社会 歴史的分野

書名 項目	1 1 6 日 文
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の大きな流れを理解させるために、各時代の前半部に「時代の転換のようす」を捉える学習活動が、まとめの部分に「時代の特色」を捉える学習活動が設けられている。 ○我が国の歴史や人物を尊重する態度を育てるために、生活の向上や文化の発展に取り組んだ人物を取り上げる「先人に学ぶ」が設けられている。 ○多文化共生の重要性を学び国際協調の精神を育てるために、各時代の文化の特色を我が国と諸外国の歴史や文化が相互にかかわっていることが記述されている。 ○一つの事象を多面的・多角的に考察する力を育てるために、「学習の活用」のページの中で、様々な着目点から時代の特色に迫る学習活動が設けられている。
特 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、導入資料、「学習課題」、本文、「学習の確認と活用」で構成されている。学習内容の理解を図るため、基本用語や言語活動コーナーを設けている。 ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける「スキルUP」、学習した知識・概念を確認する「とらえよう！時代の特色」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の前半に「とらえよう！時代の転換」、終わりに「とらえよう！時代の特色」を設定し、自分の言葉で表現することで思考力等の育成を図れるようにしている。 ○見開き右下欄外に「学習の活用」という課題が設定されている。この課題に取り組み、自分の言葉でまとめ、表現することで思考力等の育成を図れるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の確認と活用」では、見開きの学習内容の理解を図る活動や、自分の考えを説明する課題が設けられている。 ○「でかけよう地域調べ」や「歴史を掘り下げる」「先人に学ぶ」のコーナーが設けられ、身近な地域や現代の日本に関する興味・関心を高める工夫がされている。 <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国宝、世界遺産にマークが付けられている。 ○「古代史プラスα」というコラムで古事記、日本書紀などの神話が紹介され他国の神話と共通点があることも示されている。 ○領土をめぐる問題については、本文と韓国と中国との国交についてのコラムの一部で紹介している。 <p><我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入として、資料を用いて前の時代と比較することで、今後の学習のねらいをつかませるようになっている。 ○前の時代と比べて、どのような時代に変化したのかを考え説明させる「とらえよう！時代の転換」が設けられている。 ○各時代のまとめとして、「とらえよう！時代の特色」で、年表・地図・資料をもとに各時代を復習し、時代の特色を資料をもとに説明する学習が設けられている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習内容の導入や関心を高めるための写真・資料・地図などが大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織の仕組み等が掲載されている。「読み取るう」「伝えよう」の表記があり、資料を読み取る視点が示されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに見通しをもつための「学習課題」と「学習の確認と活用」が示されている。 ○項目ごとに、どの時代を学習しているかをページ左端の年表に色で表し、小学校の学習との関連が示されている。 ○本文は敬体で、用語解説のページや参照ページが示され、資料には、見開きごとのまとめりで通し番号が付けられている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面はA B判を採用している。 ○「歴史を掘り下げる」では今日的な歴史的背景を解説したり、「先人に学ぶ」では生活の向上や文化の発展などに寄与した人物を取り上げたりして、歴史に学び、自分たちの生き方に生かしていく態度を育てられるようにしている。

新版 新しい歴史教科書

書名 項目	225 自由社
教育基本法、 学校教育法の下、 学習指導要領の教科の 目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史の大きな流れを理解させるために、序章の「歴史のとらえ方」で人物や地域に焦点を当てた歴史の学習方法が提示されている。 ○我が国の伝統や文化の特色を広い視野に立って考えさせるために7世紀の古代律令国家と19世紀後半の明治国家に重点が置かれ、コラム「もっと知りたい」等で多くの人物が紹介されている。 ○多文化共生の重要性を学び国際協調の精神を育てるために、諸外国から見た日本の姿を記述したコラム「外の目から見た日本」が設けられている。 ○一つの事象を多面的・多角的に考察する力を育てるために、時代や人物を比較する課題が各時代のまとめに設けられている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「まとめにチャレンジ」で構成されている。学習内容の理解を図るため序章に歴史の学び方や調べ方が掲載されている。 ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける「100字用語解説」、学習した知識・概念を確認する「〇〇とはどんな時代か」を設けている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き右下欄外に「まとめにチャレンジ」という課題が設定されている。学習内容を要約・表現する活動に取り組むことで思考力等の育成が図れるようになっている。 ○各単元末の「〇〇とはどんな時代か」では、時代比較・人物比較・「ひとこと」作文・意見交換会を、自分の言葉でまとめ、表現する課題が設定されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コラム「もっと知りたい」「人物クローズアップ」などを設け、生徒の興味・関心に応じて、学習が進められるようになっている。 <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国宝、重要文化財にマークが付けられている。 ○古事記、日本書紀の神話は1単元として扱われており、国の始まりと関連付けた見開き資料でも紹介されている。 ○領土をめぐる問題については、本文で紹介されている。 <p><我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入として、複数の資料を紹介し登場人物が関連する疑問を示す事で、これから学習する時代がどのような時代かイメージさせるようになっている。 ○各時代のまとめとして、「〇〇とはどんな時代か」を設け、時代比較や人物比較、また「ひとこと」作文など自分の言葉でまとめる記述形式の学習が設けられている。 ○各時代のまとめとして、各時代のおもな人物やできごとの「100字用語解説」という一覧表が掲載されている。
色	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習内容の導入や関心を高めるための写真・資料・地図などが大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織の仕組み等が掲載されている。各章の始めには写真資料が示され、読み取りの視点を考えさせる課題が示されている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに見通しをもつための学習課題とまとめが示されている。 ○項目ごとに、どの時代を学習しているかをページ左端の年表に色で表し、小学校の学習との関連が示されている。 ○本文は常体で、参照ページが示され、資料には国宝、重要文化財を示すマークが示されている。
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに見通しをもつための学習課題とまとめが示されている。 ○項目ごとに、どの時代を学習しているかをページ左端の年表に色で表し、小学校の学習との関連が示されている。 ○本文は常体で、参照ページが示され、資料には国宝、重要文化財を示すマークが示されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、B判を採用している。 ○コラムにおいては、特に規範意識、公正な判断力、公共の精神にかかわる教材の選択を重視し、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことに配慮している。

[新編]新しい日本の歴史

<p>書名 項目</p>	<p>227 育鵬社</p>
<p>教育基本法、 学校教育法の下、 学習指導要領の教科の 目標とのかかわり</p>	<p>○歴史の大きな流れを理解させるために、各章冒頭に各時代の歴史の大きな流れをつかむための「歴史絵巻」が設けられている。 ○我が国の歴史や人物を尊重する態度を育てるために、歴史を築いた人物の生き方を「人物クローズアップ」等で紹介するとともに、世界と日本の文化遺産が掲載されている。 ○多文化共生の重要性を学び国際協調の精神を育てるために、各時代を象徴する船を取り上げ海洋国家・日本の歩みが外国とのかかわりの中で紹介されている。 ○一つの事象を多面的・多角的に考察する力を育てるために、本文を多角的な視点から解説した「歴史ビュー」、歴史場面を切り取った「歴史の名場面」などが掲載されている。</p>
<p>特 内容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○見開き1単位時間とし導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成されている。学習内容の理解を図るため、本文の理解を深める視覚・補助教材が掲載されている。 ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける「課題学習」、学習した知識・概念を確認する「学習のまとめ」が設けられている。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○課題学習として「歴史学習Q&Aカードをつくろう」「歴史新聞をつくろう」の活動が設けられ、自分の考えを言葉で表現することで表現力の育成を図っている。 ○章末に、各時代の特色をまとめる課題が設定されている。この課題に取り組み、自分の言葉でまとめ、表現することで思考力等の育成が図れるようになっている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「歴史の名場面」や「人物クローズアップ」等の読み物資料や「課題学習」が設けられ、生徒の興味・関心に応じて学習進められるようになっている。 ○巻末の「調べ学習」では、インターネットの利用の仕方や、各ホームページがまとめて掲載されていて、生徒が主体的に学べる工夫がされている。 <我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫> ○国宝、世界遺産にマークが付けられている。 ○古事記や日本書紀に記された神話を見開き資料で紹介し、現代に残る地名や文化との関連を示している。 ○領土をめぐる問題については、本文とコラムの一部で紹介されている。 <我が国の歴史の大きな流れを理解させる工夫> ○各時代の導入として「歴史モノサシ」で学習する時代の範囲を確認し、「歴史絵巻」でその時代の代表的な出来事をイラストで示し、時代の大きな流れをつかませるようになっている。 ○各時代の導入として、「〇〇の世界へようこそ！」で、資料を通して時代の特徴や他の時代との違いを考えさせるようになっている。 ○各時代のまとめとして、「学習のまとめ」で、年表や地図で確認したり自分の言葉で表現する活動を通して、その時代の特色をとらえる学習が設けられている。</p>
<p>資料</p>	<p>○見開きの上部に学習内容の導入や関心を高めるための図版・文献資料・地図などが大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織の仕組み等が掲載されている。中心資料には時代の特色を読み取るための視点が示されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○各項目の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されており、項目ごとに見通しをもつための学習課題とまとめの課題が示されている。 ○章ごとに学習範囲を色で表した年表が掲載されている。 ○本文は敬体で、参照ページが示され、資料に項目ごとに通し番号が付されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○教科書の紙面は、A B判を採用している。 ○「人物クローズアップ」では、「献身」、「公共」、「勇気」、「勤勉」などの美徳を体現した人物や、国家や人生の岐路において道を切り拓いた人物を紹介し、自分たちの生き方に生かしていく態度を育てられるようにしている。</p>

新編 新しい社会 公民

書名		2 東 書	
項目			
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○権利や義務、ルールの役割等について身近な事例をもとに学ぶようになっている。本文・資料・コラムなどにより民主主義の仕組みを理解し、学習内容を深めるようになっている。 ○「対立と合意」「効率と公正」の概念を身近な事例を取り上げ、丁寧に解説している。 ○身近な話題や現代の社会事象について短時間で取り組める言語活動を設け、思考力・判断力・表現力を育成するようになっている。 ○領土をめぐる問題や地球環境問題など我が国や国際社会が抱える課題の解決に向けて、その取組を考えたり、持続可能な社会の実現について探求したりするようになっている。 		
特 内 容	色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの初めに示す「学習課題」に対し、最後にまとめを行う「確認」を設け、学習内容を確実に定着させるようにしている。また、社会的事象や資料の見方を学習する「公民にチャレンジ」や「効率と公正」マークを設け、知識や技能の定着を図るようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○政治分野の導入部「だれを市長に選ぶべき？」や経済分野の導入部「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」の学習でシミュレーションを取り入れ、思考力・判断力を高められるよう工夫されている。 ○各単元の最後に「ちがいのちがいを追究しよう」「X市の市長選挙に立候補しよう」「コンビニのお弁当を企画しよう」等の課題を設けることで表現力等の育成を図っている。また、各章に対立と合意等について、効率・公正の見方や考え方を活用して考える課題を設けている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文の内容に関して「公民にアクセス」や「インタビューコラム」を掲載することにより、興味・関心を高めるようにしている。また、学習内容に関わる内容を「公民にチャレンジ」で取り上げることにより、主体的に学習を進めるようになっている。 ○「深めよう」では、各国や各都市の取り組みを扱い、国や地方の課題に生徒が意欲的に考える工夫がされている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「公民にアクセス」の中で「ハンセン病と人権」や「高齢者の人権と生活保障」等の個人の尊厳や生徒の日常生活に関連する人権の尊重について考えるようになっている。 ○「深めよう」では、歴史や地理での学習内容を踏まえ「アイヌ民族と先住民族の権利」について考え、オーストラリアのアボリジニなどの例も見ながら国際的な権利保障の視点からも学ぶようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の学習を、興味・関心を持たせる導入部→学習を進める展開部→章の学習をまとめる終結部という流れで構造化し、知識や概念が習得できるようになっている。また、導入部と終結部の教材に関連性をもたせることで、章の学習の流れを明確化し、学習の成果を終結部で活用しやすくしている。 ○分野関連マークによって、地理や歴史で学んだ事を意識しながら学習に取り組む事ができる。 	
		資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○A B判のサイズを活用し、資料を掲載している。三分野の関連の深い、グラフ・資料等には関連がわかるマークが付されている。 ○巻末の「参考法令集」では、憲法・法律等を掲載し、日本国憲法の難しい語句に側注で解説を付けている。また、巻末に「用語解説」を設け、難しい用語の解説を掲載している。 ○それぞれのページの学習内容に合った写真、表、読み物、グラフなどを配置している。また、学習の深化を図るために「公民にチャレンジ」を設けている。
		表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で重要語句は太字で示し、側注で語句を解説している。また学習課題を明示している。 ○活動や課題は各種のマークで示されていて、活動等に取り組むようになっている。また、関連事項が分かるように、本文に「→p○○」と書かれている。 ○資料には見開きごとのまとめり、通し番号を付け、対応する本文の上該当の番号を付している。
総 括	<p>紙面はA B判である。学習課題に対して、本文、資料等によって基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、「確認」等でそれらを定着させるようにしている。また個人やグループで行う作業や活動をまとめた「公民にチャレンジ」や調査学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能を身に付ける「調査の達人」、本文中の内容を詳しく説明したり、関連する内容を取り上げたりする「公民にアクセス」といったコーナーを設けることで学習内容を深め、主体的に学習を進めるようになっている。</p>		

中学社会 公民 とともに生きる

書名		17 教 出
項目	教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事例をもとに権利や義務、ルール等について理解させ、本文・資料・コラムなどの読み物によって、民主主義の仕組みについて考えを深めるようになっている。 ○現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として「対立と合意」「効率と公正」の概念を身近な事例を取り上げながら丁寧に解説している。 ○現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察するようになっている。今日的課題について考え表現するようになっている。 ○他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うとともに「未来への私の約束」レポートを作成し持続可能な多文化共生社会の形成に参画しようとする態度を養うようになっている。
特 内 容	色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習展開の初めに示す「学習課題」に対応し、見開きの学習のまとめを行う「ふりかえる」によって学習内容の定着を図るようになっている。また、「言葉で伝え合おう」「読み解こう」を設定し、資料活用の技能を高めるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「監視カメラ設置」「裁判員制度」等のテーマで話し合い、ディベート、シミュレーション、プレゼンテーション等の活動を通して思考力が育成できるように工夫されている。 ○各時間の「ふりかえる」において（○○を説明しよう）という課題に取り組むことで表現力が育成できるようになっている。また、各単元の最後にある「学習のまとめと表現」には「自分の意見を書く」等の設問があり、学習内容を深めるとともに表現力を高める工夫がされている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を追求するための資料や「見てみよう」で解説文を提示することで、主体的に学習進めるようになっている。「公民の窓」「読んで深く考えよう」では、身近で具体的な事例によって興味・関心を高めるようになっている。 ○「言葉で伝え合おう」では、プレゼンテーションやレポートの作成の過程が分かりやすく書かれていて、より関心を深める工夫がされている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見てみよう」や「公民の窓」では、生徒が身近に感じる「有害情報の規制か、表現の自由か」、「プロ野球でもストライキ」等の題材を通して人権について考えるようになっている。 ○「読んで深く考えよう」の中では、「ともに生きる社会を目指す人たち」を取り上げ、個人の尊厳と人権の尊重について探究するようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の授業を見開き2ページで構成し、学習の導入または中心となる資料を配置し、挿絵の人物の問いから学習が展開されていく形式となっている。タイトルには学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習内容を示す副題を置き、学習課題を明示することで、課題意識をもって学習に取り組めるようになっている。授業のまとめでは課題に対する答えとして、二つのステップでの振り返りが設けられている。
		資 料
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で、重要語句は太字で示されている。本文の難解な用語や補足説明の必要な箇所には、側注に解説を設けている。 ○本文中には、資料との関連を示す番号が付され、前出・後出箇所との関連を示す参照ページが「p○○」の形で示されている。 ○見開きの左ページに学習課題が明示され、学習課題に対応した「ふりかえる」では、学習内容の確認と活用の2段階のステップも設けている。 	
総 括	<p>紙面はA B判である。はじめに「公民の学習を始めるにあたって」の中で公民で学ぶ内容、学び方、公民のノートづくりについて示されている。挿絵の人物を通じた発問などを示して興味や関心を高め、学習課題へ迫るために、きっかけとなる資料を「見てみよう」の解説文とともに紹介している。学習内容に関連するコラム「公民の窓」や学習内容を深化させるための「読み解こう」「ふりかえる」では生徒が課題意識をもって取り組み、思考力等を高めるようになっている。</p>	

中学 公民 日本の社会と世界

書名 項目	35 清水
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○民主主義については、具体的な事例を用いて今日的な課題に気づかせ、考え方やしくみを学べるようになっている。</p> <p>○各ページで現代社会の今日的課題等について問いかけをすることで、学習のねらいを明確にし興味・関心を高め、考えたり表現させたりして見方や考え方を養うようにしている。</p> <p>○地球規模の課題の解決と国際社会全体の平和について、生徒が主体的に取り組むようになっている。</p> <p>○未来を切り拓く持続可能な社会の形成については、身近な生活に即した題材を取り上げ、日常生活に深いつながりがあることを学ぶようになっている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○資料の読み取りや側注の補助説明によって、事象への理解が進み、学習内容が定着するようになっている。また、「深める公民」「もっと知りたい公民」は基礎的・基本的な知識や資料活用などの技能の育成を図る内容になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○欄外の「調査」で（～について考えてみよう）（～を調べてみよう）等の課題が設定されており、その課題に取り組むことで思考力等を育成できるように工夫されている。</p> <p>○「対立と合意」等については、序章の「私たちと現代社会」の中で、身近な例が提示されており、解決策を考えることで現代社会の見方や考え方にそって考察できるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○単元の導入部では、扉ページに学習内容に関係する人物の活動等を取り上げたり、テーマを提示し、それに対して問いかけを行ったりすることで、興味・関心を高め、主体的に学習を進めるようになっている。</p> <p>○「深める公民」では、各課題についてどう解決したらいいかといった、興味・関心を高め調べ学習ができる工夫がされている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「深める公民」の中で、冤罪とそれを防ぐものとしての憲法の役割に触れ、再審によって無罪になった事例を通じて、人権の尊重の大切さを学ぶようになっている。</p> <p>○「もっと知りたい公民」の中で、「知っておきたい労働者の権利」を通して身近な例から労働者の人権について考えるようになっている。</p> <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <p>○見開き2ページで1時間の授業が展開できるように設定し、導入部として「目標」マークで生徒への具体的な問いかけから各単元の学習の課題が把握できるようになっている。また細かな解説や補足が必要と思われる箇所には、注を設けて説明し、本文と色を分けて見やすい工夫がされている。</p>
色	
資 料	<p>○巻末には憲法、法令、条約などを掲載しており、日本国憲法では、用語の解説がある。また「現代社会のうごき」を年表としてまとめている。</p> <p>○学習内容を深めたり、探究したりするための資料として「深める公民」・「もっと知りたい公民」を掲載している。</p> <p>○それぞれの本文中のページの学習内容に関連している写真、表、読み物、グラフなどを配置した構成になっている。</p>
表記・表現	<p>○文体は敬体で、重要語句は太字で示し、側注で語句の解説をしている。見開きページには学習目標が書かれている。</p> <p>○「知識」のマークでは、本文に関連する事柄について、資料や条文などの具体的な内容を示している。</p> <p>○活動や課題を各種のマークで示しており、活動等に取り組むようになっている。本文に「→p○○」と書かれ、関連事項が分かるようになっている。</p>
総 括	<p>紙面はB判である。各編の最初に、学習内容に関連する人物の言葉を掲載している。特設ページ「もっと知りたい公民」では、学習内容に関連するテーマを図版や写真を用いて解説している。また、学習内容の深化を図るため「深める公民」を設けている。本文中には学習目標や補足説明を記号で示し、学習内容の確認ができるようになっている。最終章の最後に地理、歴史、公民的分野のまとめとして、「もっと知りたい公民」の中で「卒業論文を書いてみよう」という課題ページを設けている。</p>

中学社会 公民的分野

<p>書名 項目</p>	<p>116 日 文</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事例をもとに権利や義務について認識させるようになっている。本文・資料・イラスト等を活用して民主主義の考え方、さまざまな仕組みを学ぶようになっている。 ○「対立と合意」「効率と公正」の概念を身近な事例を取り上げ丁寧に解説している。 ○現代社会の今日的課題について自ら考える作業学習があり、まとめの学習で表現力等の育成を図っている。 ○国際社会への貢献に関する日本の長所を取り上げ、日本が世界に提供できる価値を提示している。レポートの課題例を5つ示すなど、丁寧に解説し、持続可能な社会を築くために、主体的に現代社会に参画する意欲を養うようになっている。
<p>特 内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習課題」に対して、最後の「学習の確認と活用」で知識の習得と活用を図るようになっている。また、「情報スキルアップ」で取り組みやすい作業を交えることで、情報の集め方、読み取り方、伝え方、活用の仕方などの技能の育成が図れるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時間ごとに設定されている「学習の確認と活用」において、「活用」では(～を説明しよう)(～を考えてみよう)という課題が設定されている。この課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成ができるようになっている。 ○各章末に「チャレンジ公民」のページが設けられており、対立と合意等の見方や考え方をうい、様々な学習方法で思考力等が高められるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各編冒頭に「ナビ」というコーナーを設け、何をどのように学習するのがイラストや新聞記事を用いて説明されており、編の学習内容を大きく捉え、関心・意欲をもって主体的に学習を進めるようになっている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「公民プラスα」では、「ハンセン病」や「児童(子ども)の権利条約」を取り上げ、個人の尊厳と人権の尊重について考えるようになっている。 ○「明日に向かって」では、15歳は「子ども」?それとも「大人」?で権利や義務について考え、裁判員シミュレーションや年金シミュレーションでは、将来関わっていく政治制度や仕組みについて考える事ができるようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各編冒頭に、各編のポイントを親しみやすいイラストと新聞記事で考える「ナビ」を設けており、学習内容を広い視野から大きくとらえるとともに、関心と意欲がもてるようにしている。各編・章末の「チャレンジ公民」では、ディベートやロールプレイなど習得した知識と見方や考え方を活用する課題を設けている。
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に法令集があり、日本国憲法には用語解説を付し、類似用語集も設けている。また、「残したい日本の風景」では、世界遺産を含む日本の景観が紹介されている。 ○本文に関連して、「公民プラスα」、「アクティビティ」、「言語活動コーナー」などの資料が掲載され、学習の深化を図ることができる。 ○「情報スキルアップ」では、資料をどのように活用すればよいのかを説明している。また、連携コーナーを本文中の脚注に設け、小学校や三分野の関連を示している。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で、重要語句は太字で示され、側注では語句の解説や補足説明がされている。また、学習箇所的位置を確かめながら学習できる「インデックス」を付している。 ○見開きの左ページに学習課題が明示され、学習課題に対応した振り返りとして、「学習の確認と活用」を設けている。 ○本文中には資料との関連を示す番号が付され、前出・後出箇所との関連を示す参照ページが「→p○○」の形で示されている。
<p>総 括</p>	<p>紙面は、A B判である。各編の始めに導入ページがあり、編の学習の基礎となる考え方を示している。本文中には導入資料とそれに関係する問いかけを設け、学習課題につなげている。言語活動のコーナー「読み取ろう」「考えよう」「伝えよう」では図版の内容を読み取ったり、読み取ったことをもとに思考・判断・表現したりする活動を示している。また、「チャレンジ公民」や「公民プラスα」などの特設ページやコラムを設け、学習内容の深化を図っている。</p>

新しい公民教科書

<p>書名 項目</p>	<p>225 自由社</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○現代社会について歴史的な分野と関連付けながら諸資料を活用して学べるようになっている。立憲的民主主義に関する考えや仕組みについて、歴史的な背景を踏まえながら理解することができるようになっている。</p> <p>○「対立と合意」「効率と公正」の考え方を全編を通して、事例を変えて繰り返し扱い、見方や考え方を養うようになっている。</p> <p>○現代社会の特色や直面している課題について「ミニ知識」や「もっと知りたい」などの資料によって、深く考え、発展的に学べるようになっている。</p> <p>○国際社会に生きる日本について、安全と平和、国際貢献と国際協力等の事例を用いて学び、持続可能な社会の形成について、レポートやディベートによって課題を探究するようになっている。</p>
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○各章の最後に「学習のまとめと発展」を設け、最重要語句を確認することにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るようになっている。また、見開きページごとに「ここがポイント！」を設け、要点をまとめている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○各単元末の「学習のまとめと発展」の中に「複数の課題からひとつ選び、400字でまとめる」という課題が設定されている。これに取り組むことで思考力等が育成できるようになっている。</p> <p>○教科書欄外の「ミニ知識」などを中心に「対立と合意」等の考え方を繰り返し扱うことで、思考力等を育てるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「もっと知りたい」を設け、興味・関心に応じて学習内容を深め、主体的に学習を進めるようになっている。また、「ここがポイント！」を見開きページごとに設けることで、自主学習を進めやすくなっている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫> ○「もっと知りたい」の中で、「日本人拉致問題」を学習することで、個人の尊厳や人権の尊重の意義について考えるようになっている。</p> <p>○「ミニ知識」の中で、各国の政治制度について学習する事で、日本の政治制度についての理解を深めさせる事ができるようになっている。</p> <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫> ○基礎的・基本的学習から系統的な反復学習についての構成が工夫されている。国家についての学習では一度にすべてを学ぶのではなく、人類の誕生の歴史を背景にして誕生したばかりの状態の国家から、漸次国家の役割が増え、最後は国民に権利を保障し平等な立場で政治に参加する国民国家に発展していくように配置されている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には「すごいぞ日本の技術は」で世界に誇る先端技術の特集が組まれており、巻末には法令集がある。</p> <p>○巻末「わが国の領域」では、地図や写真を掲載し、生徒が領土について興味・関心をもてるようになっている。</p> <p>○巻頭の「学習を深めるために」では、「ミニ知識」、「紹介する主な人物が」一覧になっている。学習課題の解決に向け、写真・図・グラフ・統計資料等が配置されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○文体は敬体で、重要語句は太字で示している。本文中で難解な用語には、側注に語句の解説を設けている。</p> <p>○見開き左ページに学習課題を明示している。また、「ここがポイント！」では、学習内容の要点が掲載されている。</p> <p>○本文に「→p○○」と書かれ、関連事項が分かるようになっている。また、側注に「ミニ知識」として補足説明が掲載されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>紙面はB判である。各単元の重要語句は太字になっており、すべて巻末の索引に登録されている。また、各章の最後にある「学習のまとめと発展」では、各単元の最重要語句を掲示し、基礎・基本の定着を図れるようになっている。「もっと知りたい」では、写真や図表を示し、学習内容の深化を図っている。「ミニ知識」では、本文で学習する内容の補充ができるようになっている。さらに、これらの基礎的・基本的な知識を活用するために言語活動を設け、表現力を高めるようになっている。</p>

新編 新しい社会 地図

書名 項目	2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○基本図、テーマに沿った部分図と資料、グラフや統計など多様な資料を掲載し、広い視野から世界と日本の国土、また地域の結び付き等の地域的特色を考察し、理解させるようになっている。</p> <p>○各州・地域ごとのテーマに沿って資料図を掲載するとともに「ジャンプ」によって関連する資料の場所を示し、様々な資料により多角的に考察させるようになっている。</p> <p>○地域ごとに特色あるテーマをあげて、歴史的背景、他地域との関連、自然条件等を学ばせて地域的特色や課題をとらえられるようになっている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○巻頭に「この地図帳の活用方法」を設け、地図帳の読み方、学び方が習得できるようになっている。</p> <p>○州ごとに「基本資料」のページを構成し、基礎的・基本的な知識と地図帳の活用技能の習得を図るようにしている。</p> <p>○「世界全体」と「日本全体」をまとめて配置し、地図帳活用の技能を習得するようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○基本図の項目部分に「注目したい記号」を設けている。この記号に注目することにより、その地域の地理的特色をとらえる視点や工夫が身に付くようにしている。</p> <p>○資料の地図に「ジャンプ」という説明が設けられている。関連した内容の地図がどこにあるのか書かれており、関連づけて考える手助けとなっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○テーマに沿った部分図は、各地域の特色をまとめるレポート等を作成する場合に、生徒が主体的に進められる構成になっている。</p> <p>○日本の基本図では、全体図の次に各地域の人口が多い地域を拡大して掲載し、地域の地理的な特色に着目しやすい。</p> <p><地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫></p> <p>○各州・地方ごとにテーマ資料のページを設け、教科書を補完する資料を掲載し、各地域の地理的特色、学習テーマに基づいて追究するように構成されている。</p> <p>○関連する資料がほかのページにもある場合、「ジャンプ」マークを記載し、そのページを参照することにより、同じテーマについて、他の州・地方と比較し考察できるようになっている。</p> <p><我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫></p> <p>○巻末のページに、北方領土・竹島・尖閣諸島を写真付きで取り上げており、日本固有の領土であることを明記している。</p> <p>○環境問題や災害、エネルギー問題特集したページを設けたり、各国の生活や文化、宗教など国際理解に関わる資料図を掲載したりして、地理的認識や今日的な課題の考察を深める工夫がなされている。</p> <p>○写真やグラフなどの資料が豊富で、様々な事象を具体的にイメージしやすい。</p>
色	<p>○世界の一般図では、地名が読みとりやすく、土地の高さを色の濃淡でわかりやすく示した「等高段彩表現」が用いられている。</p> <p>○日本の一般図では、「等高段彩表現に土地利用表現を加えた地図表現」を用いられており、日本の諸地域のようにす・特色がよりよくとらえられる。</p>
資 料	<p>○「国名」や「首都名」，「都道府県名」や「都道府県庁所在地」など、学習上とくに重要な地名は大きく太く記載し、他の地名よりも目立つように配慮されている。</p> <p>○日本の一般図などに記載した「都道府県名」「市町村名」「自然地域名称」などには、誤読を防ぐために、全てふりがなが付してある。</p> <p>○学習上とくに重要な「国名」「首都名」には欧文を併記して、国際化に対応している。</p>
表記・表現	<p>○西アジア、環地中海の一般図、江戸時代の大阪の詳細図、環境問題や国際協力等の資料を掲載し、歴史・公民的分野との関連付けを図っている。</p> <p>○地図中の赤色の文字を白色で縁取りしたり、ふりがなをゴシック体としたりする等の工夫をし、色覚の特性をもつ生徒を含めすべての生徒が判別して読めるように工夫している。</p> <p>○主体的に社会に参画する意識や態度を養えるように、具体的に社会参加をしている人の姿や防災・安全といったこれからの日本について考える資料を掲載している。</p>
総 括	<p>○西アジア、環地中海の一般図、江戸時代の大阪の詳細図、環境問題や国際協力等の資料を掲載し、歴史・公民的分野との関連付けを図っている。</p> <p>○地図中の赤色の文字を白色で縁取りしたり、ふりがなをゴシック体としたりする等の工夫をし、色覚の特性をもつ生徒を含めすべての生徒が判別して読めるように工夫している。</p> <p>○主体的に社会に参画する意識や態度を養えるように、具体的に社会参加をしている人の姿や防災・安全といったこれからの日本について考える資料を掲載している。</p>

中学校社会科地図

項目	書名 46 帝国
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○基本図、テーマ別資料図、鳥瞰図で自然・産業・生活・文化の視点で構成した多様な資料を用い、広い視野から日本と世界の地域的な特色を考察させ理解させるようになっている。 ○テーマ別に資料図やグラフなどをまとめた「ながめてみよう」では「地図をみる目」を設定して地理的な見方や考え方の基礎を養うようにしている。 ○地域ごとの特色を示す資料図を取り上げることで、環境条件や他の地域とつながりから地域的特色や地域の課題をとらえられるようになっている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「この地図帳の使い方」「地域の特色をとらえるポイント」で読図の視点や地理的特色の追求の仕方を示し、技能を身に付けるようになっている。 ○400万分の1で日本列島を概観できる基本図を見開きで掲載し、近隣諸国との位置関係、領土・領域と交通機関による結びつきなどを捉えることが出来るようになっている。 ○地理的分野の基本的な図で使用頻度の高い世界の国々を活用しやすい巻頭にまとめている。また、自然（地形や気候）の資料図も巻頭にまとめている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本図に「やってみよう」という課題が設定されている。この課題に取り組むことで、その地域の特色を考察し、理解できるようになっている。 ○基本図に「地図を見る目」というコーナーが設けられている。地図を見るポイントが記載されており、思考力が高められる工夫がされている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域の特色をとらえるポイント」を設けて考察手順を示すとともに、「国土地理院の地形図を読み取ろう」で作業手順を示し、主体的に学習が進められるようにしている。 ○日本の基本図では、全体図の次に各地域の人口が多い地域を拡大して掲載し、地域の地理的特色に着目できるようにしている。 <p><地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各州・地方ごとにそれら大観する資料図、様々な視点の資料を一続きにまとめ、各地域の地理的特色を、大観的かつ多角的に追究するように構成されている。 ○世界各州の資料中に「日本との結びつき」の資料を掲載し、経済面を中心に世界の諸地域を日本との結びつきからとらえられるようになっている。 <p><我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の基本図のページに、北方領土・竹島・尖閣諸島を写真付きで取り上げており、日本固有の領土であることを明記している。 ○環境問題や災害問題を集めたページを設けたり、各州・地方ごとに環境問題や防災・災害に係る資料図を掲載したりして、地理的認識や今日的な課題の考察を深める工夫がなされている。 ○写真やグラフなどの資料が豊富で、様々な事象を具体的にイメージしやすい。
色	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の一般図では、地名が読みとりやすく、土地の高さを色の濃淡でわかりやすく示した「等高段彩表現」が用いられている。 ○日本の一般図では、「等高段彩表現に土地利用表現を加えた地図表現」を用いられており、日本の諸地域のようにす・特色がよりよくとらえられる。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○特殊な用紙や特殊なインクが使用され、地図・写真が美しく鮮明に表現されている。 ○「国名」や「首都名」、「都道府県名」や「都道府県庁所在地」など、学習上とくに重要な地名は大きく太く記載し、他の地名よりも目立つように配慮されている。 ○日本の一般図などに記載した「都道府県名」「市町村名」「自然地域名称」などには、誤読を防ぐために、全てふりがなが付してある。 ○学習上とくに重要な「国名」「首都名」には欧文を併記して、国際化に対応している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○特殊な用紙や特殊なインクが使用され、地図・写真が美しく鮮明に表現されている。 ○「国名」や「首都名」、「都道府県名」や「都道府県庁所在地」など、学習上とくに重要な地名は大きく太く記載し、他の地名よりも目立つように配慮されている。 ○日本の一般図などに記載した「都道府県名」「市町村名」「自然地域名称」などには、誤読を防ぐために、全てふりがなが付してある。 ○学習上とくに重要な「国名」「首都名」には欧文を併記して、国際化に対応している。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸時代の東京などの地図や鳥瞰図「本州中央部」に五街道とその全宿場を掲載したり、国際機関への参加国を示したりして、歴史・公民的分野との関連付けを図っている。 ○地図中の赤色の文字を黒色で縁取りしたり、小さい文字を白色で縁取りしたりして、色覚に特性をもつ生徒を含めすべての生徒が判別して読めるよう工夫している。 ○社会参画への意識や態度を養えるよう学習課題「やってみよう」を設け、生徒自らが社会的諸課題について考えたり、話し合ったりできるような工夫をしている。

新編 新しい数学

項目	書名
	2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるよう、きめ細やかな問題構成とし、個人差にも対応できるようにしている。</p> <p>○身近な事象に関連した問題解決型の学習を通して、式や図、表などを用いて説明し伝え合う、数学の特質を生かした言語活動を充実し、数学的な思考力や表現力が高まるようにしている。</p> <p>○数学を生活や他の教科に活用する学習を通して、数学の有用性を実感し、学習への意欲が高まるようにしている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補充問題が充実している。さらに問の横に既習事項が掲載されているページや補充問題活用問題が掲載されているページが示されていて活用しやすい。 ・ 問の前に「例」と同じ型の「たしかめ」問題が設けてあり、例題の理解度が確認できる ・ 「ちょっと確認」や巻末の「算数の振り返り」などで既習事項を確認することができる <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学び合い」のページに対応したノートの記述例があり、思考の過程を書かせることで表現力をつけさせる工夫が見られる。 ・ 「学び合い」のページは右ページ始まりで自力解決の際に考えの例が見えないようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容のまとまりごとに学習のめあてを明示し、見通しをもち、学ぶ意欲を高められる工夫がある。 ・ 「数学のまど」では、各単元の学習と関連したさまざまな内容の課題を扱っていて、生徒の興味関心を高める工夫がみられる。 ・ 導入では、身近な題材を多く取り入れ、生徒の興味関心を高める工夫がみられる。 <p><数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のまどや巻末の「社会とつながる」「教科とつながる」では「ペットボトルのリサイクル」や「地震のゆれを予測する」など、社会や職業における数学の活用や他教科の学習への数学の活用、数学を学ぶ意義や有用性が実感できるようになっている。
色 資 料	<p>○資料としてのさし絵は、授業の様子を意識して「黒板の絵に式、図、表」を使って表したり、問題の場面に合った数多くの写真が盛り込まれており、説明する内容については「例」、「色枠や付箋」の形式で分かりやすく示されている。</p> <p>○巻末付録として1年生では「正多面体の展開図」5つ全てが作成でき、2年生では「図形の性質発見器」、3年生では「三平方の定理パズル」が設けられている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○学びの補充がいつでもできるようページの右側が空いている。また、「基本の問題」では理解できなかったことにもどって学習できるようページの指示がある。理解が早い生徒には「補充の問題」と関連事項のページが分かるようにマークで示されている。</p> <p>○各章ごとにインデックスが表示されており、導入となる節の始めも同じ色で示され見やすくなっている。</p> <p>○キャラクターや中学生4人により、学習のヒントや手立てが示されている。</p>
総 括	<p>○学習のまとまりごとに「めあて」を明示し、見通しをもち主体的に学習に取り組む態度を養う工夫がされている。また、生徒が互いに学び合い、自分や友だちの考えを話し合いを通して深めていけるよう構成されている。学び合いのページと連動して、数学マイノートでは記述例が示され思考の過程を振り返り考える力を伸ばす工夫がされている。</p>

新版 数学の世界

書名 項目	4 大日本
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○既習事項とのつながりを重視し、見通しをもって課題を解決していけるよう、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるようにしている。</p> <p>○学習の見通しをもち、学んだ知識や技能を活用するために、身近な事象を題材として取り上げ、図や表、式、グラフなどを用いて考える場面や、互いの考えを読み取る場面を積極的に取り入れている。</p> <p>○さまざまな題材を通して数学を学ぶことのよさや、数学の有用性について知り、数学を活用しようとする意欲や態度が育つよう配慮している。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各項目の最初に学習の手がかりとなる問題が設けられており、既習事項の確認や既習事項との関わりが分かり、生徒の理解を深める工夫になっている。 ・Qの問題を補充する「プラス・ワン」の問題が用意されている。巻末には「補充の問題」があることで、反復練習ができる工夫がみられる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・章末の発展問題に、答えが1つではないような問題が設けられていて、生徒がさまざまな思考がもてるような工夫がみられる。 ・「研究しよう」や「レポートを書こう」では、発表の仕方やレポートの書き方などが示されていて、表現力を高める工夫がみられる。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の横に「見いだそう」「利用しよう」「伝えよう」といった数学的活動を促す言葉が書いてあり、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようになっている。 ・導入では、身の周りの事象を扱う課題が多く取り上げられ、興味関心がもてる工夫がされている。 <p><数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会にリンク」の「数学も大工の道具の1つ」や「マスフル」の「緊急地震速報」など、既習事項と関連するコラムや数学が生活に活用されている場面が紹介されている。
色 資 料	<p>○資料としての写真はほとんど見あたらないが、さし絵は「式、図、表」に細かい数量が示されている。「例」についても、どの生徒にも解くヒントになるよう「穴埋め形式」をとっていることが多い。</p> <p>○巻末付録として1年生では「正十二・二十面体の展開図」、2年生では「いろいろな四角形の模型」、3年生では「三平方の定理パズル」が設けられている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○学習のねらいや話し合い、レポートにまとめたりする問題がマークで示されている。</p> <p>○「その章で学ぶ最初のコーナー」では、色を変えた2ページが割かれており、導入となる設問が上部と下部で示され見やすい。</p> <p>○学ぶ内容で登場が変わる3つのキャラクターにより、学習のヒントや手立てが示されている。</p>
総 括	<p>○「ノートづくり方」「レポートを書こう」で、ノートのまとめ方や学習した内容を他の人に伝えるための工夫が例示されている。学習活動に「見いだそう」「利用しよう」「伝えよう」といった数学的活動を促す言葉が添えられ、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p>

中学校数学

<p>書名 項目</p>	<p>1 1 学 図</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるように配慮するとともに、その背景にある原理・法則についての理解が深められるようにしている。 ○習得した知識や技能を利用し、日常や社会における事象を数学的に表現・処理して問題を解決することに役立てられるようにしている。 ○具体物を操作する活動と、数学的に考えたり説明したりする活動を結び付け、興味・関心を高めつつ、知的成長が促せるようにしている。</p>
<p>特 内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ・計算力を高めるために類題別（基本の問題、計算練習）に問題設定をし、家庭学習で活用できるようにしている。 ・巻末に基礎・基本となる問題を用意し、復習できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ・類推、帰納、演繹の3つの推論など数学で使われる考え方を巻頭に載せ、生徒が数学的な考え方がどのように使われているかを側注に例示し、学びやすいように工夫されている。 ・「深めよう」のページでは、数学的な思考力・表現力が高められるように構成されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ・章の始めに、身近な題材が扱われていて生徒の興味・関心を促す工夫がされている。 ・2人の問いかけとその参照ページが明示されており、今後の学習につなげる工夫や生徒の主体的な学習が展開されるように構成されている。</p> <p><数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫> ・章末に「まとめの問題」や「深めよう」で学習内容の応用的な問題や身の周りの事象に活用する課題が設定されている。 ・環境教育では「車の費用と燃費の比較」や「太陽光や風力による発電方式」、福祉教育では「点字のしくみをしらべよう」、防災・安全教育では「車のスピードと停止距離の関係」や「初期微動継続時間」などの数学の有用性に着目した題材が取り上げられている。</p>
<p>色 資 料</p>	<p>○資料としてのさし絵は、「式、図、表」に細かい数量が示されている。「例題」が多く数多くのパターンを学ばせる。 ○巻末付録として1年生では「角錐の展開図」、2年生では「合同な三角形のしきつめ部品」、3年生では「因数分解パズル」が設けられている。</p>
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<p>○数学的な活動の場面では、活動内容がマークで示されている。また新しく学習する問題やその学習目標などが分かるようマークで示されている。 ○「その章で学ぶ最初のコーナー」では、色を変えた2ページが割かれており、導入となる設問も適切に示され見やすい。 ○キャラクターや中学生2人により、学習のヒントや手立てが示されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○2人の問いかけとその参照ページが明示されており、次の学習につながる工夫や生徒の主体的な学習が展開されるよう構成されている。巻頭に類推、帰納、演繹の数学的な考え方を示し、それらの考え方がどのように使われるかを例示して学びの助けとなるよう工夫している。</p>

中学数学

書名 項目	17 教 出
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○基礎的な概念や原理・法則については、生徒の発達段階やその後の学習展開を考慮して適切に配置している。</p> <p>○身近な事象を数理的に考察・表現し、問題を解決する能力が高まるようにしている。また、多面的にもものを見る力や論理的に考える力などを身につけられるようにしている。</p> <p>○身のまわりの問題場面を取り上げるなどして、興味・関心をもって楽しみながら学習が進められるように工夫している。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びをサポートするようにノートづくりの工夫を紹介している。 ・生徒のつまづきを解消するように章の始めに「学習をする前に」があり既習事項を問題形式で確認し、章末には「学習のまとめ」で整理するようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数学で大切にしたい考え方」を巻末で紹介し、数学的な思考力・判断力についてどのように学習していくか示されている。 ・「見いだす活動」「伝え合う活動」の場面があり、いろいろな方法で課題解決ができる題材を用意し、それらの考え方を伝え合う場面が設けられている。 ・「ノートの工夫」では、ノートづくりを通して数学的な思考力・表現力を高めるためのポイントが示されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いながらグループで課題を解決できるように工夫した課題があり、事象を数理的に考察・表現し課題を解決する能力を高める工夫がある。 ・生徒の興味・関心をひくような「数学の広場」「チャレンジコーナー」「数学メモ」などがあり、主体的に学習が展開されるように構成されている。 <p><数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各章にある「みんなで数学」や「数学ミニ事典」など実生活に活用できる課題が多く取り入れられており、数学を活用して考えたり、判断したりできるよう工夫されている。 ・環境教育では「大気中の二酸化炭素の濃度」や「ペットボトルキャップのリサイクル」福祉教育では、「点字の仕組み」や「スロープの勾配」、防災教育では、「飲料水の備蓄」などの題材が取り上げられている。
色 資 料	<p>○さし絵は「式、図、表」に細かい数量が示されている。説明する内容については、どの生徒にも解くヒントになるよう「例題」で考え方と共に解答が示されている。</p> <p>○巻末付録として1年生では「正多面体の展開図」、2年生では「三角形の移動・合同の説明部品」、3年生では「因数分解パズル」が設けられている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○学習の進度によってマークが使い分けられている。小学校の既習事項に関しては「もどって確認」のマークが示されている。</p> <p>○「その章で学ぶ最初のコーナー」では、色を変えたコーナーにページが割かれており、シンプルに問題提示され見やすい。用語にも色枠が使われている。</p> <p>○キャラクター3つと中学生4人により、学習のヒントや手立てが示されている。</p>
総 括	<p>○章の始めにこれから学習する内容と関連する既習事項「学習する前に」があり、つまづき解消に配慮されている。また、章末には「学習のまとめ」で振り返り整理できるようになっている。学習内容を活用したり深めたり広げたりするための、「チャレンジコーナー」や「数学の広場」、「ジャンプ」などが位置づけられている。</p>

未来へひろがる数学

書名 項目	61 啓林館
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○数学的な概念・原理・法則を、具体的な例を通してわかるように工夫している。</p> <p>○日常生活や社会に起きていることがらを数学的にとらえたり、数学の世界のことがらを発展させたりする場면을積極的に取り入れている。また、考察したことや、その結果を表現する場면을意図的に設け、表現力を高める工夫をしている。</p> <p>○生徒が楽しく、主体的に学習できるようにするため、「見だし発展させる活動」、「数学を利用する活動」、「説明し伝え合う活動」を積極的に展開している。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい内容を学習するとき、既習事項に関連するページが示されている。 ・別冊のマスナビブックの「学びをつなげよう」で、この後学習する内容につながる既習事項をわかりやすく見直すことができる。 ・「基本のたしかめ」や「くり返し練習」では、本文の参照ページが示されていて、振り返りをしながら反復練習ができる工夫がみられる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の言葉で伝えよう」という、考え方や理由を述べさせる場面を多く設けてあり、思考力や表現力を高める工夫がみられる。 ・学習のとき重要な見方や考え方、数学的な思考をひろげていく課題設定の視点を「見方・考え方」という吹き出しの中に入れて意識付けができるようになっており、思考力や判断力を高める工夫がみられる。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスナビブックの「学びをつなげよう」では、これから学習する内容に関連した既習事項を確認できるので、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。 ・各章の導入や「学びをいかそう」では、身近な題材を多く取り入れ、興味関心がもてる工夫がみられる。 <p><数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数学を活用している人」のコーナーで、スポーツやデザインと数学の関連が学べる場面が設けられている。 ・その章で学んだ内容を使って、身の回りの問題を解決する場面が設けられている。
資 料	<p>○さし絵は「式、図、表」に細かい数量が示されている。説明する内容については、どの生徒にも解くヒントになるよう「例」「例題」に解答が示され、要点の説明は色枠や鍵のマークで示されている。</p> <p>○巻末付録として1年生では「正二十面体の展開図」「紙コプター」、2年生には無く、3年生では「合同な三角形と台形のしきつめ部品」が設けられている。</p>
色 表 記 ・ 表 現	<p>○興味・関心に応じて取り組む「数学広場」では、「ひろがる数学」や「数学を通して考えよう」などがマークで示されている。</p> <p>○「その節で最初に学ぶコーナー」では、色を変えたページが使われ見やすい。</p> <p>○中学生2人により、学習のヒントや手立てが示されている。</p>
総 括	<p>○巻頭の「学習の進め方」で、数学の学び方やノートのまとめ方についていねいに示されている。「自分の言葉で伝えよう」という考え方や理由を説明する場面が多く設けてあり、思考力や表現力を高める構成となっている。別冊「マスナビブック」があり、既習事項の振り返りや活用が主体的に行えるようになっている。</p>

中学校数学

書名 項目	104 数 研
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○基礎基本がしっかり定着するように、振り返り・学び直しの機会が豊富に設けられている。また、重要な箇所に注目しやすい工夫がされている。</p> <p>○身近な事象に関連した題材を取り上げ、与えられた問題を考える際の思考の流れや、実際に問題を解く際の式変形の流れをとらえやすくする工夫がされている。</p> <p>○生徒にとって身近な問題が豊富に取り上げられており、数学を活用する意識をもたせることや、数学の有用性を感じさせている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項に関連するところに参照ページが示されている。 ・章末の基本問題だけでなく、項目ごとに「確かめよう」というまとめの問題があるなど、問題量が豊富であり、くり返し学習ができるようになっている。 ・巻末にチャレンジ編として、基本事項のまとめ、確認問題、発展問題がまとめられていて、自分の力に応じて、反復練習ができるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動に関するものに「見つけよう」「伝えよう」「活用しよう」といった言葉が書かれていて、生徒の思考を促す工夫がみられる。 ・章末や巻末に「やってみよう」「深めよう」などの発展的な問題が多く設けられていて生徒の思考力、表現力を高める工夫がみられる。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3種類のキャラクターそれぞれに役割があり、疑問を投げかけたり、注意を促すような吹き出しが多くあり、生徒が見通しをもって取り組める工夫がみられる。 ・「章のとびら」や「数学探検」では、身の周りの事象を多く取り入れ、生徒が興味関心もてる工夫がみられる。 <p><数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「数学探検」や章末の「やってみよう」では、身の周りの事象で数学を活用できる場面が多く取り上げられている。 ・「地球温暖化問題」や「LED電球はお得？」など、数学の有用性が実感できる題材が多く取り上げられている。
色 資 料	<p>○さし絵は大きく「式、図、表」が示されている。説明する内容についてはどの生徒にも解くヒントになるよう「例」「例題」に解答が示され、解答例と共に要点がはり紙形式で示されている。</p> <p>○巻末付録として1年生では「四角錐の展開図」「立方体の切断面説明部品」、2年生には無く、3年生では「因数分解パズル」「三平方の定理パズル」が設けられている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○数学的活動につながる学習内容、既習事項の振り返りやノートを取り方の工夫についてマークが示されている。</p> <p>○「その章で学ぶ最初のコーナー」では、色を変えた2ページが割かれており、教科書の文字の見やすさと直接書き込める気楽さがある。</p> <p>○学ぶ内容で登場が変わる3つのキャラクターと中学生4名により、学習のヒントや手立てが示されている。</p>
総 括	<p>○各学年とも巻頭の「クイックチャージ」で既習事項を振り返れる構成となっている。数学的活動に関連する問や項目には「見つけよう」「伝えよう」「活用しよう」のマークがつけられ、思考力や表現力を育成する工夫がされている。「やってみよう」では、いろいろな活動を通して、数学のよさを学ぶことができる題材を扱っている。</p>

中学数学

書名 項目	116 日 文
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○基礎的・基本的な内容や考え方を理解することに重点を置いた展開にするとともに、知識や技能の確実な定着を図れるようにしている。</p> <p>○既習の数学をもとに新たな数や図形の性質を見だし発展させたり、身近な具体的な事象を数学的に考察したりする学習に取り組めるようにしている。</p> <p>○具体的な操作活動や思考活動、自分の考えや解決の方法を説明し伝え合う言語活動を多く取り入れ、数学的活動の楽しさを味わえるようにしている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程で生じる疑問や気づきなどが提示してあり、生徒の学習活動の助けになるように工夫されている。 ・数学「マイトライ」で課題や問題を集めたコーナーがあり、個に応じて取り組めるようになっている。 ・「繰り返し練習」の必要な箇所に巻末ページを示すことで復習が取り組みやすくなるような工夫がある。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小節に「話す」「聞く」「かく」「読む」といった言語活動を通して数学的な思考力・表現力を育成する工夫がある。 ・口述による説明、記述による説明が身につくような工夫が見られる。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの必然性・ストーリー性を重視した内容の「章の扉」があり、興味・関心を促す場面設定で生徒の学習意欲を高める工夫がある。 ・「数学の学習で大切なこと」では、数学的活動に取り組むために必要なことが示されている。 ・「チャレンジ」が横欄にあり、もっと学習したいと思う生徒に主体的な学習が展開できるように構成されている。 <p><数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活への利用」や「数学のたんけん」で、日常生活や社会の中で数学の内容が利用されている場面を扱っている。 ・環境教育では、「年平均気温の上昇」、防災教育では「道路冠水基準高と海拔-1 m」や「地震のP波とS波」、福祉教育では、「スロープの勾配とバリアフリー」、「点字の仕組み」、さらに健康、国際理解、情報などの今日的な課題が取り上げられている。
色 資 料	<p>○さし絵は「式、図、表」に細かい数量が示されている。説明する内容については「例」「話し合おう」で設けられており、解答例と共に要点が色枠を使って示されている。</p> <p>○巻末付録として1年生では「正多面体の展開図」、2年生には無く、3年生では「因数分解理解パズル」が設けられている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○例題には、その学習活動の内容が併記されている。また、「基本の問題」「章のたしかめ」では、問題の観点が示されている。</p> <p>○「その章で学ぶ最初のコーナー」では、色を変えた2ページが割かれており、シンプルに問題提示され見やすい。用語にも色枠が使われている。</p> <p>○キャラクター3つと中学生4人により、学習のヒントや手立てが示されている。</p>
総 括	<p>○章の始めにその章の学習内容と関連する既習事項を振り返り、レディネスを高める構成となっている。また、「章のとびら」では、日常と関連付けた身近な題材を多く設け、生徒が興味関心をもって主体的に学習できるよう工夫されている。特に「生活に利用」を設定し、生活の中で数学を活用する構成を強調している。</p>

新編 新しい科学

項目	書名 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入で、身近な事象を見開き2ページの写真で示すとともに、章の導入でも大きな写真を示し、生徒の学習意欲を喚起するようになっている。 ○実験の目的を明確に示し、仮説を立てたり、観察・実験の意味を確認する質問に沿って生徒が事実や根拠に基づいて考察するようになっている。 ○科学と実社会・実生活との関連を意識した写真や題材を多く取り上げるとともに、単元ごとの特集で日本の科学技術を紹介するなど、科学の有用性が感じられるようになっている。
特色 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「これまでに学んだこと」で既習事項を示し、「まとめ」「章末」で復習し、単元ごとの「学習内容の整理」で重要語句を、「確かめと応用」で繰り返し復習させるようになっている。「基礎操作」に観察・実験の手順や操作上の注意事項が詳細に記述され、基礎技能の習得について配慮されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験では、結果を分析、解釈するために、「結果の見方」「考察のポイント」によって結果、考察の視点を示し、事実を認識させ、根拠に基づいて考えさせるように配慮されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的意識を持って主体的に観察・実験を行うために、観察・実験の冒頭に「観察（実験）の目的」の欄を設け、観察・実験の目的を明確化している。また、観察・実験の手順やまとめごとに見出しやマークをつけ、確認すべき観点や注意すべきポイント、実験操作のコツを示している。 <p><実社会・実生活との関連を図る工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の導入部に、身のまわりの生物や日常的に目にする現象の観察を多く取り上げている。コラム「科学でGO!」や特集「ニッポンの科学」などで日常生活や社会との関連を意識させ、科学の意義や有効性に気づかせるようになっている。 <p><科学的な見方や考え方を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「予想しよう」「調べ方を考えよう」「考察しよう」などが配置されていて、科学的な思考力・表現力が育成できるように配慮されている。また「学びを活かして考えよう」「学んだことをつなげよう」「どこでも科学」「科学でGO!」などが配置されていて、内容の理解がより深められるようになっている。 <p><安全・環境保全の重要性を認識する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験ごとに、注意すべき観点の類型をアイコン化してわかりやすく示してある。実験中に地震が起きた際の行動についての記述がしてあり、不測の事態の対応について配慮されている。「科学でGO!」に、環境保全に関する内容が紹介されている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○本文と関係のある写真やイラスト・読み物が見やすい位置に大きく描かれていて、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫が見られる。 ○日本が世界に誇る科学技術等を紹介し、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○重要語句や式には、太字のゴシック体を用いている。重要語句にはふりがなを付け、式は単位を付けて枠で囲んで表記している。 ○1学年の本文の文字サイズが2・3学年のものより大きい。2・3学年のものでも、文字が大きめである。文章自体も平易に書かれていて読みやすい。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも、巻頭に科学的に探究する方法やその過程が示されており、中学校での理科の学習の進め方がわかるようになっている。 ○学年別の3分冊となっており、それぞれが各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえた単元配列となっている。

書名 項目	4 大日本
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○身近な自然や日常生活の中の興味ある事象を導入として取り上げ、生徒の学習意欲を喚起するようになっている。</p> <p>○観察・実験では、観察・実験のポイントを確認したり結果を予想する場面を設定して目的意識が明確となるような構成とし、科学的な見方や思考力・表現力を身につけさせるようになっている。</p> <p>○「くらしの中の理科」や「トピック」等の資料で科学と日常生活や社会とかがわる内容を取り上げ、科学と生活との関連について考えさせるようになっている。</p>
特色 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「これまでに学習したこと」「思い出そう」で既習事項を示し、「章末問題」や単元の「まとめ」で重要語句を復習し「単元末問題」で繰り返し復習させるようになっている。「基本操作」で観察・実験器具の操作技能を習得し、生徒が主体的に学習を進められるように配慮されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○観察・実験で、「結果の整理」「結果から考えてみよう」で考察の視点を示している。グラフの書き方や読みとり方などの具体例を多くし、科学的な思考力・判断力の育成を図っている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各章は、観察、実験、基本操作などを通して探求の方法や基本的な知識を習得できるようにし、「トピック」「くらしの中の理科」「科学史」などの資料を充実させることで興味・関心を高めながら、生徒が主体的に学んでいけるような構成になっている。</p> <p><実社会・実生活との関連を図る工夫></p> <p>○単元や章の導入で、身近な自然事象に目を向けさせたり、日常生活と関連づけたりして学習の意欲付けを図っている。「やってみよう」で身近な事象と関連する観察・実験を取り上げたり、「くらしの中の理科」で学習内容が日常生活や社会で活用されている話題を取り上げ、科学の意義や有用性を意識させるようになっている。</p> <p><科学的な見方や考え方を育成する工夫></p> <p>○「結果の整理」「結果から考えよう」などで結果を分析して解釈する場面が設定され、「話し合ってみよう」では科学的な表現力を養うように配慮されている。</p> <p><安全・環境保全の重要性を認識する工夫></p> <p>○観察・実験では注意マークと留意事項が示してあり、事故や危険なことは安全マークで示してある。「トピック」等の中に、環境保全に関する内容が紹介されている。</p>
資 料	<p>○本文と関係のある写真やイラスト・読み物が見やすい位置に掲載され、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</p> <p>○2学年、3学年とも、巻末に周期表を載せていて、周期表をすぐに見つけられる。</p>
表記・表現	<p>○重要語句や式には、太字のゴシック体を用いている。重要語句にはふりがなを付け、式は単位を付けて枠で囲んで表記している。</p> <p>○各学年の文字サイズが統一されている。文章自体も平易に書かれていて読みやすい。</p>
総 括	<p>○各学年とも、巻頭に「教科書の使い方」が示されており、中学校での理科の学習の進め方がわかるようになっている。</p> <p>○学年別の3分冊とし、それぞれ観察・実験が行いやすい時期や生徒の発達段階を踏まえた単元配列になっている。</p>

中学校科学

書名 項目	1 1 学 図
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○単元の導入時に、日常的な場面の写真やイラストを用いて学習内容と関連ある課題を提示し、生徒の学習意欲を喚起するようになっている。</p> <p>○課題解決の方法や結果の予想等を話し合う「話し合ってみよう」が適宜設定されており目的意識をもって主体的・協働的に学習に取り組むようになっている。</p> <p>○「日常とのつながり」や「科学の窓」等の資料で学習内容と関連する日常場面や話題を紹介し、理科を学ぶ意義や有用性を感じられるようになっている。</p>
特 色 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「これまでに学んできたこと」で既習事項を示し、「問い」「学習の確認」「学習のまとめ」で重要語句や基本用語を復習し、「単元末問題」で繰り返し復習させるようになっている。「基本操作」を設け、観察・実験で使用される器具などについての基礎的な技能を習得させるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○本文中の「話し合ってみよう」で、自ら問題解決をする態度や、科学的なものの見方や考え方を育成するようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各学年の巻頭に「観察・実験の進め方」があり、探究の方法がわかりやすく示されている。また、観察・実験をうまく行うコツなどを「ポイント」として示し、「Let's Try!」や「チャレンジ」で生徒に主体的に学習させるための工夫をしている。</p> <p><実社会・実生活との関連を図る工夫></p> <p>○本文中に、学習内容と日常との関連を示す「日常とのつながり」マークをつけたコラムが設けられている。単元末には、学習内容と関連した職業と働く人を紹介し、実社会・実生活との関連を図っている。</p> <p><科学的な見方や考え方を育成する工夫></p> <p>○「問い」「話し合ってみよう」「単元末問題」で、特に活用力や表現力を意識させたいものには、活用マークや表現マークが示されている。</p> <p><安全・環境保全の重要性を認識する工夫></p> <p>○危険防止のため、必要箇所には目立つように「注意」マークを表示し、太字で簡潔に注意事項が示されている。「科学の窓」で、環境保全に関する内容を紹介している。</p>
資 料	<p>○本文と関係のある写真やイラスト・読み物が見やすい位置に大きく掲載され、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫が見られる。</p> <p>○単元のはじめに写真やイラストが多く使われ、学習の流れが見通せるようになっている。</p>
表記・表現	<p>○重要語句や式には、太字のゴシック体を用いている。重要語句にはふりがなを付け、式は単位を付けて枠で囲んで表記している。</p> <p>○各学年の文字サイズはほぼ同じであるが、どれも大きめである。文章は平易に書かれていて、読みやすい。</p>
総 括	<p>○各学年とも、巻頭に「観察・実験の進め方」と「教科書の使い方」が示されており、生徒が目的意識をもって観察・実験に取り組めるようになっている。</p> <p>○学年別の3分冊になっており、それぞれの単元の順序性は示さず、前半は1分野、後半は2分野の単元配列になっている。</p>

自然の探究 中学校理科

書名 項目	17 教 出
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○単元の導入で、身近な事象や不思議な現象を見開きの写真で示すとともに、章の導入でも大きな写真を示し章にかかわる疑問を提示することにより、生徒の学習意欲を喚起するようになっている。</p> <p>○観察・実験の前に課題を提示し、内容に応じて「話し合おう」「考えよう」を設け、目的意識が明確になるように科学的な思考力や表現力が身につくようになっている。</p> <p>○科学の話題を紹介する「ハローサイエンス」を随所に掲載し、科学と実生活との関連や環境について取り上げ、理科を学ぶ意義や有用性を感じられるようになっている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「思い出そう」で既習事項を示し、章の「要点チェック」、単元の「要点と重要語句の整理」「基礎・基本問題」で復習し、「活用・応用問題」で繰り返し復習させるようになっている。「基礎技能」で、観察・実験での基礎的な技能習得の工夫を図っている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「考えよう」「話し合おう」で繰り返し思考や表現をさせる場面を設定し、科学的な見方や考え方を身につけるように工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○観察・実験の前に「課題」を提示し、内容に応じて「話し合おう」「考えよう」を設け仮説の設定、実験計画の立案などを円滑に行えるようにしている。また、「準備」「方法」「結果」「考察」と項目を細かく示し、生徒が主体的に観察・実験に取り組めるよう流れ図（フローチャート）を採用している。</p> <p><実社会・実生活との関連を図る工夫></p> <p>○章の導入では、日常生活で目にすることができる事物・現象を多く取り上げている。「ハローサイエンス」「ミニコラム」では、日常生活に密着した話題や社会と関連する事象を取り上げ、科学の意義や有用性を意識させるようにしている。</p> <p><科学的な見方や考え方を育成する工夫></p> <p>○「導入」→「課題把握」→「予測」→「観察・実験」→「結果の分析」→「規則性の発見」→「レポート作成」→「発表」という流れを重視し、科学的な見方や考え方が身につくようになっている。</p> <p><安全・環境保全の重要性を認識する工夫></p> <p>○観察・実験で、絶対にしてはいけないことには「禁止」の、特に注意することには「注意」のマークがついていて朱書きで具体的な指示を示してある。「ハローサイエンス」の中で、環境保全に関する内容を紹介している。</p>
色 資 料	<p>○本文と関係のある写真やイラスト・読み物が見やすい位置に大きく掲載され、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫が見られる。</p> <p>○単元と関連した日本の文化や伝統についての話題を掲載し、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○重要語句や式には、太字のゴシック体を用いている。重要語句は赤色にふりがなが付けられ、式は単位を付けて枠で囲んで表記されている。</p> <p>○各学年とも文字は小さめで、その分情報量が多い。文章は平易に書かれていて、読みやすい。</p>
総 括	<p>○第1学年の巻頭に「理科学習の進め方」が示されており、中学校での理科の学習の進め方がわかるようになっている。</p> <p>○学年別の3分冊とし、それぞれ前半は1分野（化学・物理の順）、後半は2分野（生物・地学の順）の単元配列になっている。</p>

未来へ広がるサイエンス

書名 項目	61 啓林館
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○単元や章の導入では、学習内容に関連する事象を見開き2ページの写真で示し、生徒の学習意欲を喚起するようになっている。</p> <p>○観察・実験の目的を明確に示し、探究の過程を重視して観察・実験を行うことにより目的意識を明確にし、科学的な見方や思考力や表現力が身につくようになっている。</p> <p>○学習内容に関連したコラムを紹介し、科学の有用性を感じるようにするとともに、別冊の「マイノート」を活用し、科学的な見方や考え方の基礎を養うようになっている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「振り返り」で既習事項の確認をした上で、本冊の「学習のまとめ」やマイノートの「基本のチェック」「力だめし」で復習するようになっている。「実験のスキル」で、観察・実験の基礎的な技能を習得させるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各単元は、学習課題を軸とした問題解決の流れを繰り返し、主体的で探究的な学習サイクルによって、科学的な思考力が身につくようにされている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○観察・実験には「目的」をのせ、解決すべき課題を示し、「方法」をステップ分けすることにより、見通しを持って取り組むことができるよう工夫されている。本冊の「話し合ってみよう」やマイノートの「サイエンスアプローチ」で、生徒同士が教え合い、学び合いによる主体的な協働学習ができるようにしている。</p> <p><実社会・実生活との関連を図る工夫></p> <p>○学習内容と関連したコラム「部活ラボ」「はたらく人に聞いてみよう」「科学偉人伝」「先人の知恵袋」などを紹介し、多様な場面で学習内容と社会のつながりが実感できるようになっている。</p> <p><科学的な見方や考え方を育成する工夫></p> <p>○読んで理解する本冊と、書いて理解するマイノートがあり、科学的な見方や考え方を多様な方法で養うことができるようになっている。</p> <p><安全・環境保全の重要性を認識する工夫></p> <p>○観察・実験で注意すべきところには、注意マークと朱書きで示してある。本冊の巻末に「地球・環境資料」が掲載されており環境保全に目を向けさせるように工夫してある。</p>
色 資 料	<p>○日常生活や部活動などとの関連を紹介した多彩な写真やイラスト・読み物が掲載され、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫が見られる。</p> <p>○現場で働く人々を紹介した「はたらく人に聞いてみよう」などを掲載し、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。</p>
表記・表現	<p>○重要語句や式には、太字のゴシック体を用いている。重要語句にはふりがなを付け、式は単位を付けて枠で囲んで表記している。1学年の本文の文字サイズが2・3学年のものより大きい。</p> <p>○単元ごとにある「学習のまとめ」では、重要語句が青色の文字で書かれていて、付属の青色シートで覆うと文字が見えなくなり、用語を隠して覚えられるようになっている。</p>
総 括	<p>○各学年とも、巻頭の「この教科書の使い方」で課題解決の流れが示されており、中学校での理科の学習の進め方がわかるようになっている。</p> <p>○学年別の3分冊とし、それぞれ前半は2分野の「生命・地球編」を、後半は1分野の「物質・エネルギー編」を基本とした単元配列になっている。本冊と別冊「マイノート」から構成されている。</p>

中学音楽 音楽のおくりもの

項目	書名	17	教出	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○音楽を愛好する心情や感性を育てるために大作曲家や、著名人の言葉を掲載し、生徒の興味関心を引き出す工夫がされている。</p> <p>○各学年ともに3年間の系統性を図り、共通した大きな3つのまとまりを主として構成されている。また、このまとまりを基に各教材に関する補助教材等が設定され、発展的な学習ができるように配慮されている。</p>			
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○Let's sing、Let's Tryでは、知識や技能を視覚的にも理解しやすいよう図絵で表されている。また、教材とも関連させ、各々の技能を試み、楽しめるよう工夫されている。</p> <p>○楽典のページの記載があり、内容についても整理されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○教材の音楽の用語や記号を明確にし、調べやすいよう工夫されている。</p> <p>○共通事項については、「活動のポイント」が教材ごとに示され、学習内容が明確化されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○現代に活躍する人のメッセージや作曲家の創作物語からの言葉など、興味関心を高め、学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○歌のアルバムの「工夫してみよう」で、共通事項に関わる活動のポイントが示されており、生徒の学習のヒントになっている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <p>○発展的学習内容には、「発展」と示され、他教科とも関連させ、興味をもつて学習できるよう配慮されている。</p> <p>○Let's Tryと関連させ、音楽をつくる楽しさが体験できるよう工夫している。</p> <p>○「音のスケッチ」では、創作活動を取り入れての表現の仕方を示している。</p> <p><音楽文化についての理解を深めさせる工夫></p> <p>○音楽史や「肖像で見る音楽年表」で、日本と西洋を比較しながら我が国や郷土の伝統音楽について理解できるよう工夫されている。</p> <p>○「私たちのくらしと音楽」では、現在の音楽や音楽文化教育をとりまく様々な問題について考えさせるような例があげられている。</p> <p>○我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能について、歌唱、器楽、創作、鑑賞の全ての学習を通して取り組めるようになっている。</p> <p>○鑑賞曲は親しみやすく、外国の曲をたくさん取り入れて我が国と諸外国の音楽の共通性や固有性から音楽の多様性を理解できるよう配慮されている。</p> <p>○教材に対し比較聴取を設け、言語活動を通して聴き取る力を高める工夫がされている。</p>		
		資料	<p>○巻頭口絵は写真やイラストのみでなく、メッセージを掲載するなど、新鮮で印象的である。</p> <p>○見開き3ページにわたる資料があり、楽典・楽譜・楽器の写真など各学年で見やすく工夫されている。</p>	
		表記・表現	<p>○楽譜の表記は、伴奏譜が小さく歌唱譜を大きくするという工夫がある。</p> <p>○音符や文字は、字間や行間が見やすく、記号用語の表記も適切である。</p>	
		総括	<p>○発展的学習内容には、「発展」と明示し、他教科とも関連させ、興味をもつて学習できるよう配慮されている。</p> <p>○教材に対し比較聴取を設け、言語活動を通して聞き取る力を高める工夫がされている。</p>	

中学生の音楽

項目	書名	27	教 芸	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<p>○「音楽学習MAP」に歌唱、創作、鑑賞のまとまりごとに示され、それぞれが関連づけられ、系統的に学習できる構成となっている。</p> <p>○音楽文化について理解が深まるよう幅広い分野から教材を取り上げている。また各教材の学習の目標が「学習の窓口」と関連付けながら記されている。</p>		
特色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「Grade up」「BINGO GAME」「RHYTHM GAME」「My Voice」「指揮をしてみよう」のコラムで、学習内容を確認できるようになっている。また、ワーク形式を取り入れ、書き込みながら学習できるよう工夫されている。</p> <p>○多面的な側面から評価できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○共通事項については、各教材の学習目標と共に「学習の窓口」のアイコンで示されている。</p> <p>○ヒントとしてイラストによる吹き出しを提示して、考えを深めさせるよう配慮されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「日本の歌」は、季節に合わせて配列されている。</p> <p>○作詞・作曲者の紹介、作曲者のことばを載せ、生徒の興味関心を高めるよう配慮されている。</p> <p>○曲の上部に各教材の目標を明示し、方法についても赤の◎でアドバイスを提示し、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <p>○発展的学習が設けられ、他教科との関連を図り、興味をもって学習できるよう工夫されている。</p> <p>○巻末の楽典資料「音楽の約束」で基本的な内容を確認しながら学べるように作られている。</p> <p><音楽文化についての理解を深めさせる工夫></p> <p>○「心の歌」では、1ページにわたる大きな美しいカラー写真と共に、各学年2曲以上配列されている。</p> <p>○伝統芸能や民謡なども興味関心をもって取り組める内容である。</p> <p>○鑑賞曲のページでは、共通事項を「学習の窓口」と統一された色分けで、ポイントとして提示し、日本の伝統音楽や外国の音楽など、ワークシート形式で学習を進めることができる。</p> <p>○発達段階に応じ、曲から感じたことを基とし、話し合い活動をスムーズに進められるよう工夫されている。</p>		
		資 料	<p>○表紙は白を基調として楽器のイラストはシンプルなデザインになっている。</p> <p>○日本の楽器と世界の楽器、日本の音楽史と西洋の音楽史を対比させることにより、日本と世界の関係をつかめるような配慮がされている。</p>	
		表記・表現	<p>○表紙裏には、日本や外国の演奏風景が載せられ、臨場感あふれる写真が印象的で、音楽のスケールの大きさや大切さが伝わる工夫がされている。</p> <p>○重要事項が太字で標記されている。</p>	
		総 括	<p>○発展学習が設けられ、他教科との関連を図り、興味を持って学習できるよう工夫されている。</p> <p>○発達段階に応じ、曲から感じたことを基とし、話し合い学習をスムーズに進められるよう工夫されている。</p>	

中学器楽 音楽のおくりもの

書名 項目	17 教出
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○知識・技能を身につけながら様々な楽器や楽曲に親しみ、演奏する活動を通して、音楽を楽しんで愛好する態度が身につくよう配慮されている。</p> <p>○楽器の写真や楽器の演奏法をわかりやすく示した写真や図が載せられ、様々な楽器や多様な音楽に興味関心がもてるよう配慮されている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各楽器の構造や名称が明らかで、各楽器の歴史と共に演奏方法を身につけられるよう配慮されている。</p> <p>○演奏のポイントや吹き出しによる演奏方法についての説明があり、わかりやすく技能を習得できる工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○Let's Playの楽曲では、目標が記されており、学習内容を把握しやすい。また、音楽の構成要素についても説明されている。</p> <p>○歌唱や創作と関連させた学習ができるよう楽譜の歌詞を載せたり、「音のスケッチ」の活動を具体的に示したり、表現や意欲の高まりにつながる工夫がされている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各楽曲のページに運指表を載せ、無理なくリコーダーの奏法を身につけられるように教材が配列されている。</p> <p>○各楽譜ごとに演奏者のコメントがあり、生徒の意欲を高める工夫がある。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <p>○演奏のポイントでは、工夫して演奏する要点を示し、創意をこらした演奏ができるよう工夫されている。</p> <p>○リコーダーについては、ソプラノ・アルトの両方で演奏できるような工夫がされている。</p> <p><音楽文化についての理解を深めさせる工夫></p> <p>○Let's Play Let's Tryでは、多様なジャンルの曲を取り入れ、幅広い活動ができるように工夫されている。また、編曲や構成の工夫もある。</p> <p>○「合わせて演奏しよう」や「名曲旋律」では、外国の曲や日本の伝統音楽、クラシックや映画などの音楽旋律をリコーダーや他の楽器で演奏し、幅広いジャンルの曲に興味関心をもって取り組めるよう配慮されている。</p> <p>○鑑賞曲と関連付けて、楽器でも演奏できるような工夫が見られる。</p>
色 資 料	<p>○口絵では、楽器の演奏風景や演奏家のメッセージが紹介されており、視覚的に訴え、興味関心を高めるような工夫がされている。</p> <p>○見開きで、「ギター&キーボードコード表」などが示されており、鍵盤のイラスト、ギターのポジションを示す写真が並記され、一層理解しやすいように工夫されている。</p>
表記・表現	<p>○表記、説明は平易であり適切にまとめられている。</p> <p>○音符の表記が多様で、音符が見やすい。</p> <p>○楽譜については、ゆったりとした段で表記されており、階名を書きやすく、演奏時に見やすく工夫されている。</p>
総 括	<p>○各楽器の構造や名称を明らかにし、楽器の歴史や演奏方法を身につけられるよう配慮されている。</p> <p>○歌唱と創作と関連させた学習ができるよう楽譜の歌詞を載せたり、「音のスケッチ」の活動を具体的に示したり、表現や意欲の高まりにつながる工夫がされている。</p>

中学生の器楽

書名 項目	27 教 芸
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○各楽器の基本的な奏法を学びつつ、発達段階に応じて基本的な技能を習得できるように配慮されている。</p> <p>○なじみのある楽曲を取り入れ、アンサンブルを通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫がされている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○楽器の特徴を理解させ、構えや基本的な奏法について、写真やイラストによりわかりやすく解説されており、技能の習得がしやすい工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○楽器の特徴、音色、奏法を理解したうえで、アンサンブル学習に取り組めるよう、曲の構成や奏法を工夫して創作活動が行えるよう配慮されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「音楽学習MAP」と「学習の窓口」とを対応させ、目標と共に系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○パートの役割について学習し、アンサンブルでは、役割と全体の響きを考えて楽器の選択を自分たちの考えで進めるよう構成されている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○生徒になじみのある曲を取り入れたり、歌唱教材や鑑賞教材と関連した曲を扱い、意欲的に取り組める工夫がされている。 ○運指表やダイヤグラム、音楽の約束を巻末に載せ、繰り返し確認しながら技能を伸ばすための工夫がされている。 ○「音を聴いて確かめよう」では、「楽器の音色」に焦点を当てて楽器の特徴を理解できる構成になっている。</p> <p><音楽文化についての理解を深めさせる工夫> ○日本の伝統音楽の楽器編成について、わかりやすく写真で示されている。 ○和楽器については、詳細な記載があり、日本の音楽文化について理解を深めることができる。 ○「音を聴いて確かめよう」「和楽器のこぼれ話」のコラムなど、演奏方法などの掲載にとどまらず、姿勢や礼儀などに関する内容も示されている。 ○演奏のポイントや練習方法が各教材に示されている。</p>
色	
資 料	<p>○楽器を理解するために楽器の構造や演奏シーンの写真がたくさん掲載されている。</p> <p>○「楽器の音色を聴いてみよう」では、音色を確認するための補助的教材が示されている。</p>
表記・表現	<p>○言葉による説明に加え、写真や図により効果的に理解できるよう工夫されている。</p> <p>○和楽器では、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○演奏や練習のポイントも的確に示されており、各教材に扱われている記号や用語の解説が四角囲みで示されている。</p>
総 括	<p>○各楽器の特徴を理解させ、構えや基本的な奏法について、わかりやすく解説されており、技能の習得がしやすい工夫がされている。</p> <p>○なじみのある曲を取り入れたり、歌唱教材や鑑賞教材と関連した曲を扱い、創作活動にも配慮し、意欲的に取り組めるよう工夫がされている。</p>

美 術

<p>書名 項目</p>	<p>9 開隆堂</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり</p>	<p>○学習指導要領における美術科の目標に編集の基盤が置かれている。発達の段階に応じて系統的に構築された題材内容とともに、授業の目標、内容や方法、培いたい資質や能力を明解に整理して具体的に紙面に示しており、教科の目標を達成することができる教科書となっている。</p> <p>○生徒にとって、見やすく魅力的な画面で、学びやすいと同時に、活動の見通しを、振り返りの観点を通して自ら思考、判断する状況を設定したり、感性を豊かにするために自ら発想や構想を活かせる題材や幅広い活動が、生徒の自立を促しており、美術を通した人間教育の実現が図られている。</p>
<p>特 色</p>	<p>内 容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○発達段階を考えた題材におけるテーマを設けている。題材の理解を深められるよう参考作品を多く掲載し、基礎的・基本的な力がつくよう工夫している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○図工から美術へ変わることに対しての問いかけを行い美術表現を考えさせている。色丸の中の問いを設け、思考力、判断力、表現力を育成するよう工夫している</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○題材ごとに観点評価に沿った振り返りを設けることにより、ねらいを深め目的意識を持たせるよう工夫している。</p> <p><対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫> ○小見出、緑色の丸の中に鑑賞のポイントを示して、感じ取る力の手助けをしている。「ふりかえり」を設けて学習の要点をわかりやすくする工夫がされている。</p> <p><創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫> ○題材ごとにキーワードを設け、それに沿った作品を紹介したり、ページの隅に技法を紹介している。巻末に技法を紹介している教科書とは大きく違う点である。</p> <p><よさや美しさなどを味わわせる工夫> ○絵巻物の見せ方が斬新である。原寸ギャラリーのページをつくり、原寸大の感動を味わわせる工夫をしている。歴史的なものから現代作品まで幅広く取り上げている。</p> <p>資 料</p> <p>○発想を促すためのヒントや技法、制作過程を写真や言葉等で示している。 ○巻末にカッター・はさみ・パレットの扱い方が載せられており、1年生対する配慮が感じられる。 ○巻末「美術1」では9ページ、「美術2・3」では12ページ、色彩理論、表現技法、年表、鑑賞資料等を掲載している。</p> <p>表記・表現</p> <p>○題材名に活動のねらいを掲載、学習の振り返りを観点別に示している。基礎的な技法や習得させたい知識や題材に関する知識、情報を囲み記事で示している。 ○鑑賞のきっかけとなる問いかけや安全・注意に関する内容を色分けで示している。</p>
<p>総 括</p>	<p>○「表現」と「鑑賞」に区別することなく、それぞれの題材の中で関連させている構成になっている。学習の観点別に自己評価できるよう全題材に「ふりかえり」を掲載している。教科書は、「美術1」「美術2・3」の2冊である。「美術2・3」では、デザインをP.65～P.95までとして、充実させている。</p>

美術

書名 項目	38 光村
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○学習指導要領と構成をそろえ、1学年と2、3学年とに分け、中学校美術科の目標や身につけるべき能力を示している。また、教科書全体の構成や各冊の内容をわかりやすく整理し、学習指導要領の目指していることが授業者にも生徒にもわかりやすく捉えられるよう工夫している。</p> <p>○感性を豊かにするために、日常で目にする美術の事例や実際に飾ったり使ったりする例を扱った題材を取り上げている。原寸大の作品を取り上りいれたり、見開きにしたり、実生活に生かすためのマークをつけるなどの鑑賞ページを通して、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う工夫をしている。</p>
特 色	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○学習を支えるページを設け、すべての領域の基礎的・基本的な知識・技能が身につくよう工夫している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○「作者の言葉」や「みんなの工夫」を掲載し作品に対する理解、関心を持つような工夫が見られ、思考力、表現力を育成できるよう工夫している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○Qを始め多くのマークを示し、適切な言葉で主体的に学習が進められるよう工夫されている。</p> <p><対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫> ○鑑賞の分野では、見開きを大きくとっている。作者が対象をどのような思いで対象を見つめたかを分かりやすく、感じ取りやすく表記している。「みんなの工夫」を示すことで、目的や意図を考えて発想や構想の能力を働かせる工夫をしている。</p> <p><創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫> ○「学習を支える資料」のページを多くとり、資料集の役割も兼ね備えている。「みんなの工夫」として、制作途中の様子を写真で載せ、工夫することの大切さを伝えている。</p> <p><よさや美しさなどを味わわせる工夫> ○各題材ごとに目標や問いかけを設け、作品の良さや考え、味わう視点を示している。谷川俊太郎の詩を載せて（うつくしい）を」深く考えさせている。</p>
	<p>資料</p> <p>○一つのテーマから多種多様な作品例が具体的に示されている。資料や写真、作者のことで発想展開がスムーズにできるように工夫されている。</p> <p>○「学習を支える資料」では表現技法や用具、美術史年表など掲載され、資料集の学習内容が楽しめるような工夫がされている。</p> <p>○原寸大の作品例が載せられ、作品の大きさが想像しやすい。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○1年生の最初のページで図工から美術への説明があり小中の連携を意識させている。また、身に付けさせたい力や学習のねらいを10項目で示している。生活と美術の関わりや作家の活動など、学習を深める内容をマークで示している。</p> <p>○学習のテーマを多くそろえレイアウトをコンパクトにしている。生徒作品やコメントが多く、生徒の目線で鑑賞できる。</p>
総括	<p>○題材を「表現」と「鑑賞」に分けた構成となっている。巻末資料に、「学習を支える資料」を掲載し、技法や材料紹介、美術史年表が掲載されている。生徒の主体的な活動を支援するため、10項目のマークを使い学習のポイントを示している。教科書は、「美術1」「美術2・3」の2冊で、印刷もきれいである。</p>

美術

書名 項目	116 日 文	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり	<p>○生徒の発達段階に即し、理解しやすい鑑賞作品や参考例を示した3分冊で、幅広い美的体験活動を取り上げ、系統的横断的に学習内容が整理されている。美術への主体的なかわりと、美術を通した人間形成を促す工夫がされている。</p> <p>○感性を豊かにするために、「自分」「他者」「生活・社会」「自然・環境」を見つめながら学習する題材を取り上げている。原寸大の作品を取り入れたり、紙質を変えたり、見開きにする、参照マークをつけて表現との関わりを示すなどの鑑賞ページを通して、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う工夫をしている。</p>	
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○それぞれの単元で幅広い表現資料を取り上げ、知識・技能を習得しやすい工夫をしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○単元ごとに取り上げているテーマがわかりやすく生徒のやる気を引き出す工夫がある。「作者の言葉」を多数掲載し作品に対する理解、関心を持つような工夫が見られ、言葉の内容が、思考力、表現力を育成できるよう工夫している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○題材ごとに観点別評価のねらいが示され振り返りながら学びのねらいに沿って学習を進められるよう工夫されている。鑑賞・技法のページで生徒の気持ちを引きつけるような資料を掲載している。</p> <p><対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫> ○「作者の言葉」を記載して、ものの見方感じ方を文章で表し、生徒が自ら主題を見つけやすくしている。浮世絵等の鑑賞資料では、紙質を変えて作品の印象を新鮮に伝える工夫をしている。</p> <p><創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫> ○巻末に資料集的ページを設け、色彩や技法、道具について確認できるよう工夫されている。写真などは小さく扱い、少ないページでも内容は十分である。</p> <p><よさや美しさなどを味わわせる工夫> ○教科書サイズを大きくして資料のサイズも大きくなり迫力がある。作品を原寸大で掲載している。紙質がよく印刷も美しい仕上がりになっている。</p>	
	色 資 料	<p>○三冊の教科書が色鮮やかで見ると人の興味をそそる。2・3年上では紙質を変え、実際の作品の手触りを実感できる。</p> <p>○A4サイズより大きく、他の教科書よりゆったりとした印象を受ける。</p> <p>○生徒のアイデアスケッチやメモ、言葉、情景写真等を示し、自分の制作に生かせるような発想から形にするまでのプロセスを掲載している。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○「一枚の紙から広がる世界」「私が見つけた物語」タイトル名からやってみたくて興味をそそり、作品の創造性が広がるタイトルである。</p> <p>○「生徒の言葉」で作品への思いを聞ける。学びのねらいでは、4観点を示し学習の手助けをしている。生活と美術の関わりや作家の活動など学習を深める内容や他教科との関連する部分を掲載している。</p>
総 括	<p>○それぞれの分野ごとに「表現」と「鑑賞」のページを独立させた構成となっている。生徒の目線で発想や制作手順や技法が掲載されている。教科書は、「美術1」「美術2・3上」「美術2・3下」の3冊である。教科書のサイズも大きく、原寸大の作品を取り入れたり、「美術2・3上」では紙質も変え印刷もきれいである。</p>	

新編 新しい保健体育

書名	2 東 書
<p>項目</p> <p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○学習への関心・意欲を高める活動を設け、生徒が主体的に学習に取り組めるような内容になっている。</p> <p>○学習の内容と流れがわかりやすい紙面構成、資料の充実、健康や安全に関する内容を科学的に理解、習得できる内容になっている。</p> <p>○習得した知識を活用する学習活動の場面を設け、思考力・判断力・表現力を育成することができる内容になっている。</p> <p>○生涯にわたって運動に親しみ、健康を保持増進していくための意志決定や行動選択を行える実践力を育成する内容になっている。</p>
<p>特 色</p> <p>内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き2ページを1単位時間で学習することを基本としていて、学習の流れに即している。</p> <p>○学習のねらいを明記しその「キーワード」となる言葉を明記してある。また、巻末にキーワードの解説が設けられ基礎基本が身につけられるようになっている。</p> <p>○レイアウトに沿って学習が進めやすいようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○習得した知識を活用して取り組むようになっており、考える、話し合う、発表を通して思考力・判断力・表現力が身につくようになっている。</p> <p>○欄外にクエスチョンがあり、習得した知識をいかせるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○事例などをもちいたディスカッション、ブレインストーミングなどの学習方法が取り入れられ、各種マークにより他教科や他ページとのつながりがわかりやすく示されている。</p> <p>○本時の課題を「今日の学習」として具体的に分かりやすい言葉で示し、生徒が見通しをもって学習に臨むことができるよう考えられている。また、主体的に学習に取り組むためのクイズや「やってみよう」、「読み物」を設けている。</p> <p><生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫></p> <p>○運動やスポーツの学び方では、運動やスポーツについて、さらに調べる場合の視点などが示され、運動やスポーツに多様に関わることができるよう工夫されている。</p> <p>○運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることが示されており、運動に親しむ資質や能力を育成する工夫がなされている。</p> <p>○章末資料「スポーツライフ」では、運動やスポーツとの関わり方は、人によって様々であることを示し、今後のスポーツライフについて考えられるようになっている。</p> <p><健康の保持増進のための実践力を育成する工夫></p> <p>○応急手当の仕方では、イラストや写真、フローチャートを掲載し、実習を通して理解が出来るようになっている。また、webページで動画を視聴、確認しながら実習することも可能になっている。</p> <p>○犯罪被害の防止では、場所別犯罪発生件数をグラフで示したり、イラストを使って危険予測・危険回避について考えさせたりしている。また、危険を予測し回避する力が身につくような課題を設けるなど、実践力を育成する工夫がみられる。</p> <p>○1単元の最後に「生かそう」が設けられ、学習したことを自分の生活に生かしたり、興味・関心に応じてさらに調べたりする活動例が示され、実践力の育成につながる工夫がされている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○学習方法の理解を深められるよう「保健体育の学習方法」が示されている。</p> <p>○各章末に「章末資料」、「確認の問題」、「活用の問題」、「学習のまとめ」が設けられ、学習内容の理解が深められるようになっている。</p> <p>○学習内容に関連する情報やホームページを掲載している。</p>
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<p>○「今日の学習」→「やってみよう」→「本文・資料」→「考えてみよう」→「生かそう」という学習の流れで構成されている。</p> <p>○ポイントとなる語句が太字で書かれ強調されている。</p> <p>○各種のマークを活用し、資料を読み取るためのポイント等が示されている。</p> <p>○口絵部分に「この教科書の使い方」として学びのヒントや記号がまとめられている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○章の扉には、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。「今日の学習」「やってみよう」、「本文・資料」、「考えてみよう」、「生かそう」という学びの筋道が見える構成になっており、キャラクターの吹き出しで学習のヒントを伝えている。保健編、体育編の内容が学年ごとにまとめや自己評価の欄がある。</p>

新版 中学校保健体育

項目	書名 4 大日本
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○明るく豊かな生活を送ることができることを考えた内容になっている。</p> <p>○身近な生活場面の考察や、自ら考えることで、主体的な学習を行うことができる内容になっている。</p> <p>○体力向上や健康に対する理解を深め、知識を適切に実践していくための思考力、判断力表現力などの資質や能力の基礎を育成できる内容になっている。</p> <p>○自己の学習課題から出発し、必要な知識や技能を課題解決型学習によって習得し、自ずと生活に実践化できるような内容になっている。</p>
特色	<p style="text-align: center;"><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○「今日の学習の課題」、「考えよう」と身近な疑問から学習がスタートし興味をもって進められる工夫されている。</p> <p>○各小単元の最後に「キーワード」として重要語句を示し知識の定着が図れるようになっている。</p> <p>○各章の章末「学習のまとめ」では、<重要な言葉>と<学習の要点>で全体を振り返り知識・理解の総まとめができるようになっている。</p> <p style="text-align: center;"><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各章単元の「学習を活かして」で学んだことを自分の生活に活用するための具体的な課題が示されている。</p> <p style="text-align: center;"><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○学習内容をより深く理解するために「ミニ知識」や「キーワード」を提示したり、主体的に学習に取り組むために「トピックス」や「リンク」章末資料「トピックス+」などの欄を設けている。</p> <p>○学習のまとめにおいて「重要な言葉」と「学習の要点」がまとめられ、自学自習を行いやすいよう工夫されている。</p> <p style="text-align: center;"><生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫></p> <p>○運動やスポーツの学び方では、領域や種目に応じた特有の技術・作戦・戦術についてイラストや写真で説明し、視覚的にとらえさせることで、理解を深める工夫がされている。</p> <p>○運動・スポーツを行うことによる心身や社会性の発達について示されており、運動に親しむ資質や能力を育成する工夫がされている。</p> <p>○運動やスポーツの必要性和楽しさでは、これまでの経験を振り返りながら具体例と合わせて学ぶことで、自分と結び付けて考えられるようになっている。</p> <p style="text-align: center;"><健康の保持増進のための実践力を育成する工夫></p> <p>○応急手当の仕方では、反応の確認から心肺蘇生までのしかたを見開き2ページで写真やイラストを使い見やすく説明し、実習を通して理解できるようになっている。</p> <p>○犯罪被害の防止では、中学生の犯罪被害発生場所をグラフで示したり、危険予測・危険回避について考えさせたりしている。また、犯罪発生の人的要因の例をイラストで分かりやすく示し、その対策について考えさせるなど、実践力を育成する工夫がされている。</p> <p>○「学習を活かして」が小単元末に設けられ、習得した知識を日常生活で活用することを促し、知識の定着化と実践力の育成が図られるように工夫されている。</p>
資料	<p>○大きめの資料や図、生徒の興味・関心を高める「トピックス」「ミニ知識」が随所に設けられている。</p> <p>○イラストや写真を組み合わせ、学習内容を視覚的に捉えるようになっている。</p> <p>○欄外に学習に関するホームページが掲載されている。</p>
表記・表現	<p>○「学習の課題」→「考えよう」→「本文・資料」→「学習を活かして」という学習の流れで構成されている。</p> <p>○ポイントとなる語句が極太字で書かれ強調されている。</p> <p>○章末に「学習のまとめ」として「重要な言葉」「学習の要点」が示されている。</p> <p>○巻頭部分に「この教科書で学習するみなさんへ」として学習の流れが示されている。</p>
総括	<p>○各章の始めに「この章で学習すること」として、その章の課題と学習の流れが示されている。ワイドな見開き構成になっている。習得すべき基本用語を強調文字と「キーワード」として示している。関連資料を章末にまとめ、幅広い知識を習得できる資料を用いて発展的な内容を示している。体育編、保健編とともに各リンクにおいて相互に関連するページを示し、横断的な学習をするようになっている。</p>

保健体育

書名 項目	50 大修館
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的知識が習得でき、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫がしてある内容になっている。 ○科学的な根拠をふまえた表現、自発的・自主的な学習の姿勢が身につくようにした内容になっている。 ○記述の裏付けとなったり理解を助けたりする資料が多く用いている。 ○イラストや記述等において、男女の平等という観点から配慮しており、カラーユニバーサルデザインにもとづき、グラフの表現や色づかいにも配慮した内容になっている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章のはじめに中学生が抱く疑問を掲げその章で学ぶことを大きくつかむことができるようになっている。 ○重要語句が太字にで書かれていたり学習項目をキーワードとしてまとめてあり基礎基本が身につけられやすくなっている。 ○各章の最後に「学習のまとめ」のページが設けられており「学んだことを振り返ってみよう」、「学びを生かそう」「学びを広げよう」の項目があり知識の確認できるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各項目の最後にTryが設けてあり自ら考え・判断し・表現する力が身につくようになっている。 ○思考力・判断力・表現力を身につけるために、学んだことを生かして実際に考える課題として「活用」や自分の問題として考えさせる課題Challengが設置してある。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを深めたり、発展させたりするために「活用」という作業課題が示されている。また、主体的に学習に取り組めるよう本文に関連した話を「コラム」「事例」「URL」として設けている。 ○各項目の最後には、「Try」が設けられ自ら考え・判断し・表現する力がつくよう工夫されている。 <p><生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動やスポーツの学び方では、運動の技術について連続写真を使って説明するなど、視覚的にとらえることで理解を深める工夫がされている。 ○運動やスポーツの中でより良い人間関係を築くことの大切さが示されており、運動に親しむ資質や能力を育成する工夫がされている。 ○運動やスポーツには多様なかわり方があることを学校・地域・職業別に自分のスポーツとのかかわり方について考えられるようになっている。 <p><健康の保持増進のための実践力を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○応急手当の仕方では、イラストで説明したり、写真やフローチャートを載せたりして、実習を通して理解ができるようになっている。特にAEDの使い方について丁寧な解説があり、練習の際のチェックポイントが示され効果的な実習が行えるようになっている。 ○犯罪被害の防止では、防犯の取り組みを写真で示したり、「ネットワーク利用犯罪」からの危険回避方法について考えさせたりするなど実践力の育成を図る工夫がされている。 ○各章の最後に「チャレンジ」「学習のまとめ」のページが設けられ、学習の復習・生活への応用・学習の発展ができるようになっている。
色	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「キーワード」や「コラム」、「事例」を設けている。 ○章末ごとに「学んだことを振り返ってみよう」、「学びを生かそう」、「学びを広げよう」が設けられ、学習内容の理解が深められるように構成されている。 ○欄外に学習内容に関連するホームページが掲載されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文部分には、薄黄色の下地が敷かれている。 ○図や表、資料に吹き出しによる説明を加えている。ポイントの語句を太字で強調している。 ○用語解説や関連情報などマークを使用し、表示している。 ○最初の部分に「この教科書の使い方」として記号の意味や学習の流れが示されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○章の扉には、単元の目標につながっていくイメージ図を示し、学習の見通しをもてるようになっている。章の始めに、中学生が抱く疑問を掲げている。科学的な根拠を踏まえた学習内容が重視され、関連する図表や写真が示されている。また、実生活に関連した課題は4ページで構成されている。章末には学んだことを「振り返ってみよう」、「生かそう」、「広げてみよう」と学習のまとめのページが設定されている。

新・中学校保健体育

書名 項目	224 学 研
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現及び自らの健康を適切に管理し改善していく。資質や能力の基礎を養うために必要な基礎的・基本的内容を重視するとともに内容の明確化・体系化・現代化を図った内容になっている。 ○保健体育の基礎・基本となる知識を取り上げ、生徒の興味・関心を引き起こし、意欲・意志を養うために必要な内容になっている。 ○身近な生活における課題を発見し、解決する資質や能力を養うための内容、知識を活用する内容となっている。 ○体育分野と保健分野の関連、他教科との関連を図り、実生活・実社会と結びつけられるような内容になっている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の内容を見開き2ページにまとめてあり「学習の目標」「キーワード」が設けられている。 ○学習の目標を冒頭に持ってきていて、見通しをもって学習に取り組みやすくなっている。 ○章末で「用語の確認」、「基礎の完成」、「活用の問題」で知識の習得や確認、自己評価ができるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時間に「活用しよう」または「実習」を設けその時間で習得した基礎的・基本的知識を活用しやすくなっている。 ○各章の「章のまとめ」で知識を活用できるように「活用の問題」が設置してある。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「もっと広げる、深める」「探究しようよ!」を設け個々の興味・関心に応じて学習を深められるようになっている。 ○本文に関連した話を「コラム」や「情報サプリ」「リンク」として設け、知識の深化や興味・関心の高揚が図れるよう工夫されている。 <p><生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツの学び方では、戦術や作戦の例を主にイラストで説明することで視覚的にとらえさせ、理解を深める工夫をおこなっている。 ○運動やスポーツを行うことで、ルールやマナーを守ることや他者を尊重することの大切さについて示され、運動に親しむ資質や能力を育成する工夫がされている。 ○スポーツへの多様なかわり方では、具体例として2020年のオリンピック・パラリンピックへのかわり方について考えられるようになっている。 <p><健康の保持増進のための実践力を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○応急手当では、図や写真フロアチャートを用いて説明するとともに、心肺蘇生法の手順とポイントをチェックしながら実習ができるようになっている。 ○犯罪の防止では、犯罪がおりやすい場所や場面をイラストで示している。また、具体的な2場面における危険予測・危険回避を考えさせるなど実践力を育成する工夫がみられる。 ○各項目の最後に「活用しよう」が設けられ、その時間に習得した知識を活用して、思考したり、判断したり、表現したりする活動を行うことができる。
色	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「ウォームアップ」「エクササイズ」「活用しよう」など生徒の活動を引き出す設定がされている。 ○章末ごとに「章のまとめ」が設けられ学習内容の理解が深められるようになっている。 ○学習課題関連の深い情報やウェブサイトを選り、紹介している。
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○「課題の確認」→「基礎・基本を習得」→「更に広げ深める」→「活用」という流れで構成されている。 ○ポイントの語句を太字で強調している。 ○用語解説や関連情報などマークを使用し、表示している。 ○口絵の続きに「この教科書の使い方」として記号の意味や学習の流れが示されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○章の扉に小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。基礎的・基本的な知識の習得とその活用・探求に重点を置き、「学習の目標」、「本文・資料」、「活用しよう」という流れで構成させている。習得して知識を活用する課題、資料を読み解く課題、実験・実習等が設けられたり各章末の「探究しようよ!」で、課題と課題解決の方法などを例示したりしている。

新編 新しい技術・家庭 技術分野

項目	書名 2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、1章に基礎的・基本的な知識を取り上げ、「基礎技能」のページを設けるなどの工夫が見られる。 ○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、「調べてみよう」「生活に生かそう」を設けるとともに、写真や図で説明するなどの工夫が見られる。 ○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、生活の中で用いられている技術などを取り上げ、工夫・創造することができる学習課題や実習例にしている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、「目標」「始めの活動」「まとめの活動」を設けてあり、工具の使用方法や作業手順などの基礎的な技能を「基礎技能」のページにまとめて掲載し、実習の流れや手順が、必要なときに確認ができるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した知識及び技術を活用し、生活を営む上で生じる課題を解決する能力と態度を育てるために、「ものづくりの手順」という欄を設け、学習の進め方や留意事項が説明されていて、生徒が見通しを立てて問題解決的な学習を進められるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習に取り組ませる及び生活に関心をもたせ、学習の成果を積極的に生活に生かすことができるようにするために「調べてみよう」「考えてみよう」を設けている。また、実習例の手順がしっかりと記述してあり、参考にしやすく、主体的に学習に取り組みやすくなっている。 <p><実践的・体験的な学習活動を行う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践的・体験的な学習活動を行うために、2章に設計・製作など多くの実習例を取り上げ、写真や図などを用いて、基礎的な技能が習得できるよう工夫されている。 <p><技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術を適切に評価し、活用する能力を態度を育成するために、「評価・活用してみよう」のページを設け、多面的な視点から考えられるように工夫している。
色 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、写真や図、イラストなどの資料に工夫が見られる。特に、各ページの下に「ひとくち」が明記されていたり、イラストのキャラクターの発言により、課題のヒントが出たり等、関心をもたせるような工夫がある。 ○資料と本文の関係及び資料の配置には、大きめな紙面を使い、資料などの写真を大きく載せ、学習や作業、実習が進めやすい工夫があり、多様な指導計画に対応できる。
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○技術分野の各内容を1編、2編、3編、4編とし、爪見出しで編ごとに色分けされている。書体はUDフォントで統一し、タイトルや見出しはゴシック体でわかりやすい工夫が見られる。 ○学習項目ごとに目標が明記され、生徒の主体的な学習がしやすくなっている。16種類のマークを用いて、効果的な学習に取り組む工夫が見られる。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容ごとに「目標」から「まとめよう」までがひとまとまりとして構成されている。 ○指導内容の最後に「学習のまとめ」を設け、「学習をふり返ろう」「学習したことを確かめよう」「生活に生かそう」で構成されている。 ○安全面に関する内容は、作業場面に関連づけて示されている。

新技術・家庭 技術分野

書名 項目	6 教 図
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために「基礎技能・知識」「基礎技能」の欄やイラスト、写真など用いて分かりやすい工夫が見られる。</p> <p>○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、「調べよう」「考えよう」を設けるとともに、写真や図で説明するなどの工夫が見られる。</p> <p>○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、生活の中で用いられている技術などを取り上げ、興味・関心を高める学習課題や実習例にしている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、「基礎技能」「基礎技能・知識」設けて分かりやすくしている。また、写真やイラストを多く用いたり、まとめて表示したりして、実習の流れや手順が、必要なときに確認できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○習得した知識及び技術を活用し、生活を営む上で生じる課題を解決する能力と態度を育てるために、「考えよう」により、考えたりまとめたりする工夫があり、実習例も示され、生徒が問題解決的な学習を進められるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習に取り組ませる及び生活に関心をもたせ、学習の成果を積極的に生活に生かすことができるようにするために「調べよう」「やってみよう」「考えよう」を設けている。また、本文から「注」により解説や参照ページを示すなど、主体的に学習に取り組みやすくなっている。</p> <p><実践的・体験的な学習活動を行う工夫></p> <p>○実践的・体験的な学習活動を行うために、数多くの写真や図を用いている。「やってみよう」「実験」などの欄を設け、実験や体験的な活動がスムーズに行えるよう工夫されている。</p> <p><技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する工夫></p> <p>○技術を適切に評価し、活用する能力や態度を育成するために、「調べよう」「考えよう」のマークを用いて技術の興味・関心を高め、技術が環境保全や社会にどう関わるのか考えさせている。</p>
色 資 料	<p>○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、写真や図、イラストなどの資料に工夫が見られる。特に、「注意」や「コツ」が写真や図などに明記されており生徒自ら進んで学習しやすい工夫が見られる。</p> <p>○資料と本文の関係及び資料の配置には、学習の作業、実習を進めやすく、多様な指導計画に対応できる。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○技術分野の各内容を第1章、第2章、第3章、第4章とし、爪見出しで章ごとに色分けされている。書体はUDフォント、タイトルや見出しはゴシック体で分かりやすい工夫が見られる。</p> <p>○「発展」「注意」「安全」「コツ」の4種類のマークにより、効果的な学習に取り組む工夫が見られる。</p>
総 括	<p>○学習内容ごとに、日常生活との関わりや社会とのつながりを重視した課題を提示している。</p> <p>○指導内容の最後に「まとめを」設け、身に付けさせたい内容や「章末問題」で構成されている。</p> <p>○安全面に関する内容は、作業場面に関連づけて示されている。</p>

技術・家庭（技術分野）

<p>書名 項目</p>	<p>9 開隆堂</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、学習の目標を明確に示し、学習を繰り返る場面を設けるなど、学習しやすい工夫が見られる。 ○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、「豆知識」「生活に生かそう」を設けるとともに、写真や図で説明するなどの工夫が見られる。 ○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、生活の中で用いられている技術などを取り上げ、課題解決を図る力を身に付けさせるための学習課題や実習例にしている。</p>
<p>特 色 内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、身に付けさせたい「学習の目標」や小課題を設けるなどの工夫が見られる。また、豊富な図やマーク、写真などが用いられていて、実習の流れや手順が、必要なときに確認できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○習得した知識及び技術を活用し、生活を営む上で生じる課題を解決する能力と態度を育てるために、「参考」や「探求」等のマークにより、考えたりまとめたりする工夫があり、実習例も示され、生徒が見通しを立てて問題解決的な学習を進められるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習に取り組ませる及び生活に関心をもたせ、学習の成果を積極的に生活に生かすことができるようにするために「調べてみよう」「考えてみよう」を設けている。また、「?」「発展」「豆知識」等のマークにより、生徒の興味・関心に応じた学習が進められるようになっている。</p> <p><実践的・体験的な学習活動を行う工夫> ○実践的・体験的な学習活動を行うために、基本となる実習から参考・応用的なものまで多くの実習例を紹介するとともに、写真や図、絵などを用いて分かりやすくなっている。</p> <p><技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する工夫> ○技術を適切に評価し、活用する能力と態度を育成するために、「探求」のページを設け、今まで学んだ、基礎的・基本的な知識や技能を活かし、生活の中に使われている技術を評価し活用するにはどうしたらよいか考えさせている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、写真や図、イラストなどの資料に工夫が見られる。特に、「豆知識」や「発展」等で、課題を考えたり、学習を深め関心を持たせるような工夫が見られる。 ○資料と本文の関係及び資料の配置には、見開きで使う事を考えてあり、学習や作業、実習を進めやすい工夫が見られ、多様な指導計画や授業展開に対応できるようになっている。</p>
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<p>○技術分野の内容をA、B、C、Dとし、爪見出しで内容ごとに色分けされている。書体はUDフォントで統一し、タイトルや見出しはゴシック体で分かりやすい工夫が見られる。 ○学習の目標が明記され、生徒の主体的な学習がしやすくなっている。14種類のマークを用いて、効果的な学習に取り組む工夫が見られる。</p>
<p>総 括</p>	<p>○学習内容ごとに「学習の目標」から「ふり返り」までがひとまとまりとして構成されている。 ○指導内容の最後に「学習のまとめ」を設け、「学習をふり返ろう」「生活に生かそう」「探求活動」で構成されている。 ○安全面に関する内容は、作業場面に関連づけて示されている。</p>

新編 新しい技術・家庭 家庭分野

項目	書名
	2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識・技術の習得を図るために、「学習の目標」を明確に示し、「学習のまとめ」で学習状況を確認できるようにしている。必ず定着させたい「基礎技能」をまとめて掲載してある。 ○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、写真や図版を多く掲載し、身近な生活や社会における具体的な課題や題材を取り上げている。 ○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、「考えてみよう」「生活に生かそう」などの活動例を示し、主体的に学習するための工夫がされている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○編ごとに「学習のまとめ」のページがあり、「学習を振り返ろう」「学習したことを確かめよう」で生活に必要な知識や技能の習得状況を確認することができる。 ○「基礎技能」ページで基礎的な技能を写真やイラストを使い説明し、習得し、生活で生かせるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話し合ってみよう」などの活動やロールプレイングなどの実習例を設け、言語活動を充実させて、思考力、判断力、表現力を高めるように工夫している。 ○生活を営む上で生じる課題を解決する能力と態度を育てるために、「生活の課題と実践」では、課題を解決するために、計画、実践、評価、改善の流れを示している。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各節の導入には「始めの活動」を設け、関心・意欲を高められるようにしている。 ○関連する学習内容には「リンクマーク」を設け、学習内容の理解を深めるようにしている。他の教科や道徳に関連する内容がある場合は「他教科」を付して、横断的に学習を深められるようになっている。 <p><実践的・体験的な学習活動を行う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な活動例が提示されている。調理実習では、手順を写真でわかりやすく展開している。献立調理と単品調理を掲載し、実態に応じて活用できるように工夫されている。 <p><課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活の課題と実践」では、実践の流れを1「課題の発見」2「計画」3「実践」4「振り返り、見直し」5「改善」6「次の課題」と共通した流れで示している。 ○「プロに聞く」「学んだことを社会に生かす」などを取り入れ、将来や社会とのつながりが考えられるように工夫されている。 ○衣生活の実習例の後には、「私のオリジナル」を掲載し、自分なりのアイデアを引き出すための工夫がされている。
色	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな学校や地域、生徒の実態に応じて、多様な指導計画に対応できるよう、写真や図表、イラスト、日本と海外の比較資料など豊富な資料が掲載されている。 ○「手ばかり・目ばかり」の食材や幼児の靴や箸などを、実物大の写真で取り上げられている。 ○巻頭の「持続可能な社会を目指して」や省エネ、エコクッキングなど環境に関する資料を示している。また、防災に関する内容も取り上げている。
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4編の文字囲の色分けがされ、爪見出しで編と章の数字を色で囲み、学習の内容がわかりやすくなっている。 ○題材名や資料部分はゴシック体、内容文はUDフォントが使われ、重要語句は太字で表記されている。 ○ページの左下に、クイズを示し、次のページに答えを掲載している。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な内容を踏まえて、応用・発展的な内容を学習できるように系統的・発展的に組織されている。生徒の生活経験や学校や生徒の実態にも弾力的に対応できるよう、題材が工夫されている。 ○ガイダンスの後、B（食生活）、C（衣・住生活）、A（家族）、D（消費・環境）、「生活の課題と実践」（選択）の内容の順序に配列されている。

新技術・家庭 家庭分野

書名 項目	6 教 図
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、本文で丁寧に記述しさらにイラストや写真を用いてわかりやすく解説されている。 ○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、図やグラフ、写真、専門家の声などを多く掲載し、考えたり、調べたりする手がかりにしている。 ○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、実習例や問いかけを多くし、「生活の課題と実践」では、手順や方法を詳細に示して問題解決学習をしやすいとしている。
特 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各節ごとに「学習の目標」や「キーワードチェック」、内容のまとめりに「学習のふり返し」があり、書き込みをしながら基礎的・基本的な事項の確認ができる。 ○「やってみよう」「実習」「実験」などで実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術が習得できるように題材が工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」「話し合おう」「まとめよう」などの学習活動が設けられ、課題解決能力やコミュニケーション能力を高める工夫がされている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○親しみやすいキャラクターのつぶやきが、生徒の気づきを促し、自分から考えたり、調べたりするきっかけとなるよう工夫されている。 ○各章や節の導入では「自立度チェック」や「クイズ」を活用し、自己の課題を発見し、興味・関心を持って学習に取り組むようになっている。また、主体的に学習する際のヒントとなる「参考」や「ポイント」が示されている。 <p><実践的・体験的な学習活動を行う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が興味を持って学習に取り組めるように多くの実習例が示されている。イラストや写真を使って丁寧に手順や方法が説明されていて活動のイメージを描きやすい。 ○調理実習題材は主食、主菜、副菜、汁物、デザート・間食に分けて豊富に調理例が掲載されており、組み合わせて1食の献立となるように工夫されている。 <p><課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活の課題と実践」では、手順・方法を見開きで構成している。ステップ1「課題を見つける」2「計画を立てる」3「実践する（課題の解決）」4「まとめる・発表する」5「ふり返る」6「次の実践へつなげる」の共通の流れで例示している。 ○内容の「学習のふり返し」の「学習をこれからの生活にいかそう」では、学習の成果を生活に生かせるように具体的な取組や実践が示されている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や図、イラストから内容を理解することができるように、文章と画像の両方の資料を効果的に掲載している。 ○食材の切り方や子どもの手形などの原寸大写真を掲載し、比べたり、実感したりできる資料になっている。 ○日本と海外の比較資料、伝統文化、防災に関する資料も掲載している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○爪見出しを各内容と章別に色分けし学習内容を短い言葉で示している。 ○題材名や資料部分はゴシック体、内容文はUDフォントが使われ、重要語句は太字で表記され、イラストの吹き出しや記入例などは手書きに近い書体が使われている。 ○調理実習の材料を6つの基礎食品群に分類し、サイコロの目で分類を表している。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な内容から発展的な内容までが系統的に掲載されており、生徒の実態に応じて授業が展開できる。 ○「学習の目標」を明記したり、「キーワードチェック」や「学習のふり返し」として確認問題を掲載したりして、自学自習ができる構成になっている。 ○ガイダンスの後、A（家族）、B（食生活）、C（衣・住生活）、D（消費・環境）の内容の順序に配列し、「生活の課題と実践」（選択）を各内容の後に掲載している。

技術・家庭（家庭分野）

書名 項目	9 開隆堂
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、本文や図表が要点をおさえて丁寧に記述されている。写真や図版は大変わかりやすく、理解を促すための工夫がよくなされている。 ○生活と技術とのかかわりについて理解を深めさせるために、写真や図版を多く掲載し、「参考」や「探究」では生活の技術のかかわりに関する内容が掲載されている。 ○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるために、各題材ごとに「ふり返り」や「生活に生かそう」が設定されている。また、「生活の課題と実践」では、実践例を多く掲載するとともに、手順や方法を詳細に示して問題解決的な学習をしやすくしている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の導入や学習過程で課題が示され、実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術が習得できるように工夫されている。 ○「学習の目標」「小課題」「ふり返り」が設定され、さらに各題材の「学習のまとめ」で「学習をふり返ろう」や「生活に生かそう」が設定されていることで、自己評価や生活への活用ができるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」などの学習活動が設けられ、課題解決能力やコミュニケーション能力を高める工夫がされている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文では学習項目ごとに設定された導入課題で問題意識を持たせ、自ら解決しようとする態度を養うように工夫されている。 ○学習活動を促す様々な観点を各種マークでわかりやすく示し、主体的に学習に取り組ませるようになっている。 <p><実践的・体験的な学習活動を行う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が興味を持って学習に取り組めるように多くの実習例が示されている。写真や図版イラストを使って手順や方法が説明されていて、体験的な学習に生かすことができる。 ○調理実習題材は、単品を豊富に取り上げ、さらに「プラス1」を掲載し、組み合わせで1食の献立として調理できるように工夫されている。 <p><課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材とも「導入」→「基礎学習」→「展開」→「まとめ・評価」の順に、系統的・発展的に組織されており、問題解決的な学習が無理なく展開できるように工夫されている ○「生活の課題と実践」では、実践の流れをステップ1「課題」2「計画」3「実践」4「結果」5「評価」の共通した流れで示していて、実践的な学習をしやすくしている。
色 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるために、技能写真やイラストを効果的に使用している。食材や子どもの手形、足形などの原寸大写真を掲載し、比べたり、実感したりできる資料になっている。日本と海外の比較資料も掲載している。 ○環境問題、伝統文化、安全・防災、言語活動に関する資料を随所で取り上げている。
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○A～Dの内容ごとに色分けし、爪見出しには、関連する写真やマークを掲載している。 ○題材名や資料部分はゴシック体、内容文はUDフォントが使われ、重要語句は太字で表記されている。 ○各ページの下部分に「豆知識」を掲載している。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容が生徒の生活経験や発達段階に十分配慮されており、各題材が系統的・発展的に組織されている。学校や生徒の実態にも弾力的に対応できる。 ○ガイダンスの後、A（家族）、B（食生活）、C（衣・住生活）、D（消費・環境）の内容の順序に配列し、巻末に「生活の課題と実践」（選択）を掲載している。

NEW HORIZON English Course

書名 項目	2 東 書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○各単元の到達目標が明確である。習得、活用、発信の3部構成で、達成度を評価する場を設け、目標と評価の一体化が図られ、確実な定着を目指している。○今日的課題や生徒の知的好奇心を喚起する題材をそろえ、3年間の中で、生徒の興味・関心や見方を深めることをねらっている。○小学校の外国語活動に関連づけた「Hi, English」と文字指導を行う「Unit 0」の二層型入門期で4技能のバランスをとりながら、小中のスムーズな接続を図っている。</p> <p>○「学び方コーナー」では3学年で段階的に英語学習のポイントを扱っている。</p>
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○全体は、Unit, Daily Scene, Presentationの3部構成になっている。Unitで基本文習得をねらい、Daily Sceneで日常生活に使える場面の表現を、実写とセリフを通して習得できるよう配慮し、Presentationで自己表現活動による情報発信を行うことを目指している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○発信型の練習問題であるPresentationに取り組むことで、コミュニケーションに直結する思考力、判断力、表現力の育成をねらい、読みの指導では、読後に感想や賛否・理由を示せるような工夫がされている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○1ページの紙面スペースを有効に活用して『一言メモ』や『コラム』を取り入れ、本文の内容理解やコミュニケーション活動に役立つ情報がわかりやすく説明されている。</p> <p>○英語を意欲的・主体的に学習するための方法を身に付ける単元である『学び方コーナー』の欄が用意されている。</p>
色	<p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○Unit（文法と語彙の習得）→Daily Scene（コミュニケーション活動による活用）→Presentation（自己表現活動による発信）の3部構成により、4技能を総合的に学べる流れになっている。</p> <p>○各構成には技能別の練習問題があり、4技能がそれぞれ重点化されながら適宜統合されている。また、繰り返し学習することで、基礎的な知識・技能が身に付けられる工夫がみられる。</p>
資 料	<p>○各学年とも「Bonus Word Box」や「Word Room」が設けられ、表現に必要な語彙を絵入りでわかりやすく提示している。また、1年生の「一言メモ」や、2, 3年生の「コラム」など、本文の内容理解やコミュニケーション活動に役立つ情報が多数掲載されている。2, 3年生の「基本文一覧」では、文法項目別や場面ごとに整理してまとめられている。</p> <p>○巻頭に本文関連写真資料がある。本文は多くのセクションが見開きで展開されている。単語は本文横に配置されている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○1年は年間通じてブロック体、手紙や作文は手書きの文字が使用されている。1年で各単語にアクセント付記、2・3年で発音記号が併記されている。欄外に発音記号を使用した音の分類がある。</p> <p>○1年のユニット5以降で文字が小さくなり、2年でさらに小さくなり、字間が狭くなっている。3年の資料編では細かい文字となり、情報量が増えている。</p>
総 括	<p>○グローバル化に対応し、世界に発信できる日本人をめざして、各学年にテーマを設けてストーリー性のある題材展開をしている。1年生では、世界各国の文化に「出会う」ことをテーマとしている。2年生では、学校外で職業体験をしたり、海外でホームステイをしたりして、自分の知識や視野を「広げる」ことをテーマとしている。3年生では、1年生で扱った国を別の視点で取り上げたり、現代社会の課題や日本の文化について考えを深めたりして、新たな視点で「見つめ直す」ことをテーマとしている。</p>

SUNSHINE ENGLISH COURSE

項目	書名 9 開隆堂
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとの到達目標が見えるだけでなく、3年間の学習内容について見通し・目標をもった学習を可能にするため、通常課で学んだ表現を用いて行うパフォーマンス活動を各学年に3か所設置している。 ○基本事項の理解・習得を十分に積んだ状態で本文の学習に進むので、生徒にとって、重要なポイントと学ぶ順序がわかりやすい構成になっている。 ○生徒が自分の立場で考えられる題材を精選して提供している。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な学習項目であるBasic Dialogは、文型・文法事項をコミュニケーション活動を通じて習得させるために、文法構造による提示ではなく対話文で提示し、文型・文法事項を知識にとどめず、実際に使える形で提示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材を通じて生徒の身近な日常生活を英語で表現できる能力を育成する配慮がなされている。また、学年が上がるに従い、日本のことについて知ったり述べたりする題材や活動を増やすように構成されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○セクションの最初に到達目標が提示され、生徒が見てすぐに大事なことがわかるようになっている。また、『Basic Dialog』で学ぶ言語材料が基本的な対話形式で示され、『My Project』で自主的に学習できるよう工夫されている。 ○My Projectでは、自ら原稿を考え（思考力）、内容を取捨する判断をし（判断力）、スピーチを通して自己表現する（表現力）ことで自信をつけ、この過程で、できる喜びから自己肯定感を体得し、主体的に学習に取り組めるような構成になっている。 <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Program（通常課）での総合的な学習に加え、POWER-UPシリーズでは4技能を個別集中的に育成できる構成になっている。 ○各技能に特化したPOWER-UPとそれらの技能を有機的に統合するMy Projectによって、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成できるようになっている。
色	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも巻末に「できるようになったことリスト」が一覧化され、自分が身につけたことの軌跡がわかるようになっている。1年生では「Word Web Corner」や、切り離して活用できる「アクションカード」などがある。また各学年とも、巻末に単語集が設けられている。 ○各学年の多くのセクションで、本文は見開きで展開されている。巻頭に本文の題材情報が写真で紹介されている。単語は、読み物教材は本文下に、それ以外は本文横に配置されている。各学年とも、セクション毎に「音読マーク」が設けられている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年はプログラム8までブロック体、手紙や日記は手書きの文字、メールはコンピュータの字体が使われている。1年で各単語にアクセント付記、2・3年で発音記号が茶色の文字で併記されている。欄外に音声面のアドバイスがある。 ○1年のプログラム5以降で文字が小さくなり、2年でさらに文字が小さくなり、行間が狭くなっている。3年の付録の読み物教材では細かい文字となり、情報量が増えている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「3年間を見通した到達目標」を掲げている。「総合的・統合的な英語活用の場面」が設定されているなどの特徴が受け継がれている。 ○生徒の活発な学習を促すよう、協働学習や自己評価の機会を全学年に設けている。英文の内容は生徒にとって興味深い題材が用意されていて、生徒が「自分の立場で考えられる」ようになっている。 ○2つ以上の技能を統合的に活用する活動を設けて、実際のコミュニケーション場面に一層対応した活動を設けている。

TOTAL ENGLISH

<p>項目</p>	<p>書名 1 1 学 図</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○小学校で外国語活動に興味をもった生徒も苦手意識を抱いた生徒も中学校の英語学習で新たな一歩を踏み出せるよう、1年の接続期は特別構成になっている。 ○基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用して表現する言語活動をより取り組み易くなるよう工夫されている。 ○学習の見通しを立て、目標をもち、学習を通して知識・技能を習得し、表現活動で目標達成をめざしている。また学習を振り返ることができる構成になっている。</p>
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○Sectionを見開き2頁構成とし、右頁に目標文と目標文を習得するためのListening, Speaking, Writingなどの活動からなるActivitiesを設けている。目標文があるAction!でも同様な言語活動を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○Chapter末に、そのChapterで学習し、習得した目標文や重要表現を、実際に活用して書いたり話したりする表現活動Chapter Projectを設けている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○新しい文法を学ぶ際には、肯定文→疑問文→否定文の順が原則になっており、生徒にとって理解・運用しやすい提示順になっている。 ○チャプターごとに目標文を中心とした文構造・文法事項が系統的に整理・復習できる『Check It Out』コーナーが設けられており、繰り返し学習できる工夫がされている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○レッスンの各セクションごとに目標文の定着を図れるように、4技能の活動が用意されている。また、レッスン末のReviewでは、目標文や重要事項を4技能の言語活動を通して復習できる構成になっている。 ○Chapter Project やBook Projectでは習得した知識・技能を活用して表現する言語活動をより取り組みやすくなるよう工夫されている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○1年生では「各言語の挨拶」2年生では「起きてから寝るまで」や「ジェスチャー」、3年生では「こんな場面で伝えたい一言」が巻頭末に設けられている。また各学年とも付録の「More Words」に自己表現に活用できる単語集が設けられている。 ○点字がどのように表されるのか、実際にアルファベットを点字にした表を載せ、凹凸が体感できるよう工夫されている。巻頭に本文関連写真資料がある。単語は主に基本文下に配置されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○1年は年間を通してブロック体、手紙やスピーチ原稿、日記は手書きの文字、メールはコンピュータの字体が使用されている。1年で各単語にアクセント付記、2・3年で発音記号が併記されている。欄外に発音の仕方の説明(発音記号使用)が示されている。 ○1年のレッスン3、レッスン8と段階的に文字が小さくなっている。2・3年でさらに文字が小さく、字間が狭くなり、情報量が増えている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○生徒にとって身近な話題に始まり、徐々に世界へと視野を広げる展開で、生徒の知的好奇心を喚起する題材を揃えている。魅力ある題材によって、さらなる学習意欲を引き出そうとしている。 ○「聞く」「話す」「読む」「書く」活動をバランスよく配置し、各技能の統合的な活動を「Chapter Project」で行う。実践的コミュニケーション能力を育成し、高校への円滑な接続を図ろうとしている。 ○重要な語は太字で表示し、本課でくり返し扱って定着を図ろうとしている。また有用性の高い語彙を「Word Tree」で体系的に学ぶことができるようにして語彙力の強化を図っている。</p>

NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition

<p>項目</p>	<p>書名 15 三省堂</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○4技能を総合的にバランスよく育成するため、習得から活用へ、学ぶプロセスを「見える化」するレッスン構成となっている。 ○自ら学ぶ生徒を育むため、学び方がわかる多彩な情報が満載されている。 ○考える力と豊かな心を育むため、興味を持つ、感動する、感化を深める多様な題材がある。 ○入り口は音から文字へのスムーズな移行、出口は高校に繋がる確かな英語力の育成をめざし、小・中・高の接続を図っている。</p>
<p>特色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○各Lessonを「とびら」、「GET」、「USE」、「文法のまとめ」の4つのパートで構成する。GETでは、聞く・話す・書くことを繰り返し練習して基礎を習得し、USEでは、読む・話す・書く活動を通して基礎的な力を活用するよう意図されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○話す活動を、「発表」型と「会話」型の2つに分けて、それぞれににんじた指導ができるようにしている。また、効果的な表現を促す、発表・会話の仕方、書き方のヒントを提供したり、目的をもった聞く・話す・読む等の活動ができるサブLessonを配置している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○実際の使用に即した場面設定、興味を喚起する話題、他者と関わりながら進めていく活動が豊富に配列され、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できるような内容が多く盛り込まれている。 ○個々の学習をサポートするページ『For Self-Study』が各学年にあり、英語の学習の仕方に関するヒントを提示され、生徒の自主的な学習を促すような工夫になっている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○各レッスンで、GET（習得）→USE（活用）のそれぞれの段階ににんじた本文（読む）と言語活動（聞く、話す、書く）が配置してあり、4技能を総合的にバランスよく育成できるようになっている。 ○各学年とも3つのProject（統合型言語活動）が配置され、複数の技能を使用するタスクが随所に盛り込まれ4技能を統合的に使用できる力を伸ばせるように配慮されている。</p>
<p>資料</p>	<p>○各学年とも巻頭で世界の地域の文化やくらしを紹介している。各学年とも「For Self Study」を設け、個ににんじた学習方法を紹介し、自ら学ぶ力が育成されるよう配慮されている。巻末に「What Can I Do?」（Can Do リスト）があり、生徒が自分の学びをセルフチェックできるようにしている。 ○各学年とも巻末の付録には「絵でわかる単語のしくみ」や「いろいろな単語」が資料として掲載されている。単語は本文横に配置されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○全学年を通してブロック体、手紙やカード、作文の原稿は手書きの文字、メールはコンピュータの文字が使用されている。1年で各単語にアクセントが付記され、2・3年で発音記号が青紫色の文字で併記されている。欄外に音声面のアドバイスがある。 ○1年のレッスン4から文字が小さくなっている。また、2・3年で文字がさらに小さくなり、報量が増えている。行間は2・3年で狭くなっている。</p>
<p>総括</p>	<p>○英語を学ぶ中で、英語の運用力はもちろんのこと、英語を自律的に学んでいく力、さまざまな事柄に興味を持つとともに主体的にそれらに関わっていく力、これら3つの力を生徒一人ひとりが学んでいけるようしている。それは「レッスン構成が習得から活用への学ぶプロセスを見える化していること」「学びのサポートとして、学び方がわかる多彩な情報が満載されていること」「小・中・高の接続として、入り口は音から文字へのスムーズな移行、出口は高校に繋がる確かな英語力の育成としている」「興味を持つ、感動する、考えを深める多様な題材を配置して」考える力と豊かな心を育もうとしている。</p>

ONE WORLD

English Course

項目	書名	1 7	教 出
	教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○基礎的・基本的な知識・技能を培う段階から、相手の意見を聞き自分の意見を英語で言えるようになる段階まで、4技能のバランスのとれた活動を豊富に盛り込んでいる。</p> <p>○3年間を見通した到達目標を明確にし、生徒が意欲と自信をもって段階的に英語を使うことができるよう各パートの目標を掲載し、巻末に自己チェックリストを設けている。</p> <p>○身のまわりのことから学校・社会・世界へと広がる様々な話題・題材を、楽しい活動と関連させて提示し、英語に対する興味・関心を深め英語を楽しく学ぶことができる。</p>	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○基本的な知識・技能の習得と、それらを活用して表現するためのTask（各Lessonに配置）やProjectなどの活動を通して、コミュニケーション能力の基礎を養うことができるような構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○与えられたテーマについて簡単なスピーチが行えるように手順を示した活動、意見に対して感想を述べたり賛否やその理由を示す活動、身近な場面における出来事や体験などについて自分の気持ちや考えなどを書くことができるような活動を設けている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○基礎・基本の定着を確実なものにするために、簡単な言語活動を行うための別冊（Essentials）が付録になっており、授業はもちろん家庭学習用としても活用できるようになっている。</p> <p>○Activity → Task → Projectと活動を無理なく進化させていくシラバスになっている。さらに『Writing Tips』や『Conversation Tips』では、英語を使うコツを体得するページが設けられている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○Listening Tips、Reading Tips、Writing Tips、Conversation Tipsを随所に配置し、英文を聞いたり読んだり書いたりするコツ、会話を行う時のコツが身につけられるような工夫がなされている。</p>	
	資 料	<p>○各学年とも巻末に「Can Do自己チェックリスト」があり、3年間を見通しを持って学習できるようになっている。Essential の「覚えているかな？」には既習事項が整理されており、振り返りがしやすくなっている。また「And More Words」で語句の補充がされている。</p> <p>○巻頭に本文題材写真資料が掲載されている。本文はセクションごとに見開きで展開されており、単語は本文横に配置されている。</p>	
	表記・表現	<p>○1年はレッスン6までブロック体、メールはコンピュータの字体、手紙は手書きの文字が使われている。1年で各単語にアクセントが付記され、2・3年で発音記号が併記されている。欄外に発音記号を使用して分類されている。</p> <p>○学年ごとに同じ文字の大きさを統一されている。行間については、段階でそれぞれ狭くなり、情報量を増やすよう工夫されている。</p>	
	総 括	<p>○英語の文型や構文、読んだり聞いたりした英文の内容を理解することだけにとどまらず英語を使う（話す・書く）力も育成する教科書をめざしている。</p> <p>○Activity → Task → Projectと活動を無理なく進化させていくシラバスに則っている。さらにWriting Tips や Conversation Tips といった英語学習の「コツ」を体得するページを設けている。英語をつかってProjectに取り組むことで生徒たちが達成感を覚えることが、英語好きの生徒につながるよう工夫している。</p> <p>○語句や文法事項などを繰り返し学習できるよう別冊（Essentials）が付属している。</p>	

COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE

項目	書名	3 8	光 村
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○CAN-DO型の到達目標を明確にするため、「英語を使ってできること」を目標としてはっきりわかるようにして、Unit、学期、学年と3年間のステップで着実に力をつけるようにした。</p> <p>○英語そのものを学ぶだけでなく、他教科の豊かな内容を英語で学ぶことで、生徒の知的好奇心に訴え、思考力を養うよう「新しい学び」の提案がされている。</p> <p>○小学校の外国語活動が中学校の英語の学習に円滑につながるように工夫されている。</p>		
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○各単元は本文とTry It!で構成され、基本知識を習得しながら活用のための練習ができるようになっている。単元のまとめのYou Can Do It!では、実際の使用場面を想定した言語活動を通してその単元の到達目標を達成できるよう構成されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「CLIL英語で学び考えよう」では、技術・家庭、社会、理科、保健体育など他教科の内容の一部を英語で学習することで、「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」体験ができるよう工夫している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○小・中学校で学ぶ教科の内容の一部を英語で学ぶことで、教科横断的に思考力を養うことができ、英語に対して苦手意識をもっている生徒でも意欲的に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○Your coachでは、進度に応じた学習方法や、英語学習の目的意識を喚起するための丁寧な解説があり、モチベーションを高めながら自律的に学習を継続できるようになっている。</p>		
色	<p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○本文の下にReading Taskが用意され、ポイントを押さえた問いに答え、本文の理解度を確認できる。また、Try It!では、聞く活動でインプットを、話す、書くなどの活動でアウトプットの活動が行える工夫がされている。</p> <p>○聞く活動の後、場面設定を明確にすることで、話す、書くなどのアウトプット活動へ無理なく移行できる構成になっている。</p>		
資 料	<p>○「Your Coach」では学習段階に応じて英語学習の仕方のヒントが示されている。各学年とも「Word Square」には自己表現に活用できる単語が、また巻末の「こんなときどう言うの」で場面に応じた表現が掲載されている。</p> <p>○巻頭には各学年とも本文関連写真資料がある。単語は主に本文下に配置されている。また各Unitには「英語を使ってできるようになる」ための到達目標が設定されている。</p>		
表記・表現	<p>○1年は年間を通してブロック体で使用されている。1年で各単語にアクセントが付記され、2・3年で発音記号が紫色の文字で併記されている。欄外に発音する上でのポイントが示されている。</p> <p>○学年ごとに同じ文字の大きさ・行間で統一されている。学年が上がるに従って、文字が小さくなり、行間が狭まっている。</p>		
総 括	<p>○人や文化の多様性を受け入れることができる英語の力、心を育てながら、英語をつかってできることを、少しずつ増やしていくことを目指している。</p> <p>そのために、自然な英語に触れながら、生きた言葉の使い方を学ぶため、中学生のためのストーリーや生きた英語の題材を扱っている。4技能のバランスがとれたコミュニケーション能力が身につくよう本文とTry It!で見開きのページ構成を基本とする。学習に対するモチベーションの向上を目指し、知的好奇心に訴え、意欲を引き出す内容の題材や効果的な学習の方法を提案している。</p>		

